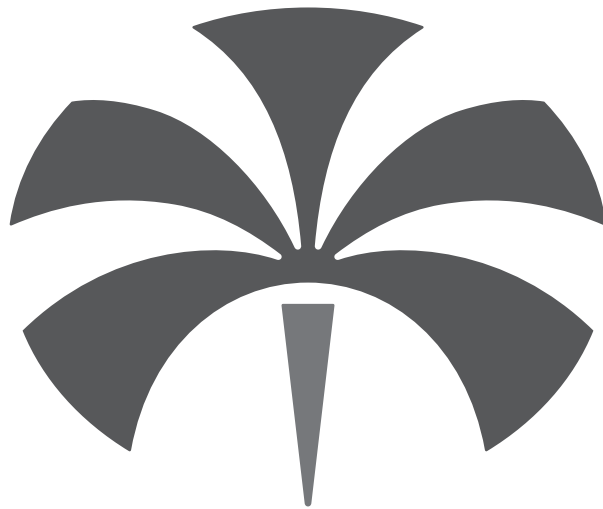


2025（令和7）年度入学生用

# 国際基幹教育機構 開設科目要覧

（学部・学域生用）



大阪公立大学

国際基幹教育機構

# 目次

ページ

<b>I. 基幹教育の目的・理念・目標</b> .....	1
<b>II. 履修要項</b>	
1. 国際基幹教育機構 開設科目とは（授業科目の種類） .....	3
2. 学年・学期・授業期間等 .....	3
3. 授業時間 .....	4
4. 授業科目の単位、単位制 .....	4
5. 履修課程と履修上の注意 .....	5
6. 科目ナンバリングのルール .....	6
7. 履修登録 .....	7
8. 成績評価・試験 .....	8
9. 成績評語と GPA 制度・CAP 制 .....	8
10. 外国語科目（英語）の単位認定および（初修外国語）入門初級履修免除制度について .....	10
11. 定期試験受験心得 .....	11
12. 成績評価についての異議申立 .....	11
13. 休講・欠席について .....	12
14. 修学上の配慮・支援 .....	15
15. 教育学習支援基盤「ていら・みす」での学修記録の記入 .....	15
<b>III. 科目の紹介・科目一覧</b>	
1. 総合教養科目 .....	19
2. 初年次教育科目 .....	25
3. 情報リテラシー科目 .....	33
4. 外国語科目（英語・初修外国語） .....	35
5. 特例科目 .....	43
6. 健康・スポーツ科学科目 .....	45
7. 基礎教育科目 .....	47
<b>IV. 履修に関するその他の情報</b>	
1. Q&A .....	53
2. キャンパスマップ・フロアマップ .....	55
3. 相談窓口 .....	55



# I. 基幹教育の目的・理念・目標

---



# I. 基幹教育の目的・理念・目標

大阪公立大学が社会から求められ、また社会に提示すべき教育は、以下に示すような能力を備えた人間を育てることであり、国際基幹教育機構ではこれらの能力を身に付けることのできる科目体系を整備しています。すなわち、「教養」「専門的能力」「情報収集・分析力」「行動力」「想像力」「自己表現力」に加えて、確かな論理的な能力と豊かな感性、他者と社会に対する共感と倫理的態度を育てることです。これらの能力を身に付けて社会の中でそれを発揮できる人間の育成を行うために、基幹教育が目指す目的・理念・目標を次のように定めています。

多くの大学において、入学後の初期段階の教育を「初年次教育」「教養教育」「全学共通教育」などと明示する中で、大阪公立大学ではそれを「基幹教育」と称しています。その理由は、我が国の初等中等教育（留学生においては海外の同等課程）から接続した教育としての高等教育への展開、生涯にわたり継続的・発展的な学修を行う態度を身に付けることの実現、世界市民として活躍するために当然に備えるべき教養および専門教育に向けた体系的な準備学修を行うという意味、学士課程教育の大きな基となり教育体系の重要な幹の要素をなすものという意味を込めているからです。

入学後の初期段階での教育については、すでに多くの大学がそれぞれの大学の理念に沿ったカリキュラムでの実現あるいは実現への努力をしていますが、大阪公立大学においても、学生の入学後直ちに実施することとなる「基幹教育」をいかに実施し、この共通の土台から専門教育へと繋げていくかは、大学教育全体の根幹をなします。

そもそも従来の「教養」という言葉は、世界のそれぞれの文化において、漢詩や古代ギリシャの文化などを基礎として、人文科学、社会科学、自然科学、技術など幅広く積極的に理解すること、また学ぶもの自身の成長を指し示すものでした。しかしながら、現在では身に付けるべき「文化」は一つではなく、成長するのは自分一人ではありません。大学は、異なる文化や社会、またそれぞれに属する個人を含めてともに

成長する場であり、異なる文化や思想がぶつかりあう社会において、自ら属する文化への深い理解に根ざしながらも、より実践的な倫理的態度・志向性と他者への共感を持ちながら、全ての文化に共通する「知」である論理的能力あるいは創造的な感性を手がかりとして、待ち受ける世界の課題に挑戦できる能力こそが、大阪公立大学の基幹教育で行う「教養教育」です。

すなわち「地域に根差し世界に羽ばたく人の育成」を志向する、多様な世界に通用する新たな教養教育こそが、大阪公立大学の基幹教育の理念です。この理念を達成するために、基幹教育は「教養」「専門的能力」「情報収集・分析力」「行動力」「想像力」「自己表現力」などの能力を身に付けて社会の中で発揮できる人間、また卒業後もなお自律して学び続ける姿勢をもち、確かな論理的能力と豊かな感性、他者と社会に対する倫理的態度を持った学生を育成するための入学後の初期段階を中心とする教育の提供と実施を行うことを目的とします。

## II. 履修要項

---





## II. 履修要項

### 1. 国際基幹教育機構 開設科目とは（授業科目の種類）

大阪公立大学の授業科目は、基幹教育科目、専門科目、資格科目および副専攻科目に区分されています。国際基幹教育機構では、下表のように、基幹教育科目、資格科目および副専攻科目の一部を開講しています。

基幹教育科目は主に1年次・2年次において学び、多くの専門科目は2年次以降に学びます。全学部・学域に共通した基幹教育科目は総合教養科目、初年次教育科目、情報リテラシー科目、外国語科目、特例科目、健康・スポーツ科学科目、基礎教育科目に分かれます。詳しくは、「Ⅲ. 科目の紹介・科目一覧」を確認してください。

#### 科目区分および開設部局

科目区分		開設部局	
基幹教育科目	総合教養科目	国際基幹教育機構	
	初年次教育科目		
	情報リテラシー科目		
	外国語科目		英語 初修外国語
	特例科目		日本語
	健康・スポーツ科学科目		
	基礎教育科目		
専門科目		各学部・学域	
資格科目	教職科目	国際基幹教育機構	
副専攻科目		各学部・学域 国際基幹教育機構	

- (1) 専門科目の科目名、単位数、配当年次および必修・選択・自由科目の区分は、各学科・学類の標準履修課程表を参照してください。
- (2) 資格科目の履修については『教職課程の手引』、副専攻科目については『副専攻ガイド』を参照してください。

### 2. 学年・学期・授業期間等

学 年：4月1日～翌年3月31日

学 期：前期…4月1日～9月23日 後期…9月24日～翌年3月31日

休業日：

- ① 日曜日および土曜日（授業調整日除く）
- ② 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（祝日授業日を除く）
- ③ 春季休業 3月20日から4月7日まで
- ④ 夏季休業 8月10日から9月23日まで
- ⑤ 冬季休業 12月24日から1月7日まで
- ⑥ その他学長が必要と認めた日

詳しい授業期間および試験期間等は、各年度当初に定められる「学事日程」によります。「学事日程」は、毎年度、本学Webサイトなどで確認してください。ただし、担当教員が必要と認めたときは、その他の期間に授業や試験が行われることがあります。

### 3. 授業時間

時限	時間
1 時限	09:00-10:30
2 時限	10:45-12:15
3 時限	13:15-14:45
4 時限	15:00-16:30
5 時限	16:45-18:15

### 4. 授業科目の単位、単位制

大学における授業科目の単位においては、1 単位の授業科目を **45 時間の学修\***を必要とする内容をもって構成することを標準としています。単位の計算方法は、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して決定します。

国際基幹教育機構開設科目においては次に掲げる基準により単位数を計算します。**各科目の授業の方法および単位数の詳細は、「Ⅲ. 科目の紹介・科目一覧」を確認してください。**

科目区分	授業の方法	1 単位あたりの 授業時間数	単位数
総合教養科目	講義	15	2
初年次教育科目	演習	15	2
情報リテラシー科目	講義・演習	15	2
外国語科目	実習	30	1～2
特例科目	実習	30	1
健康・スポーツ科学科目	講義	15	2
	実習	30	1
基礎教育科目	講義・演習	15	2～4
	実験	30	1
資格科目	講義・演習	15	1～2
	実習	30	2～4

\* 大学において1単位の修得には「45 時間」の学修が必要であり、その際の「1 時間」は実際の「45 分」に相当します。すなわち、「2 時間」は 90 分授業（1 時限）に相当します。

したがって、2 単位を修得するためには「90 時間」学修することが基本となっており、授業を受けるだけでは不十分です。2 単位の修得には、毎週「2 時間」の講義の前後に「2 時間」の予習と「2 時間」の復習をすることが前提となっています。この前提に基づいて、授業では多くの課題（宿題）が課せられることがあります。大学では、常に予習、復習を行いながら授業を受けることが履修の基本であることを忘れないでください。

## 5. 履修課程と履修上の注意

(1) 基幹教育科目…詳細は「Ⅲ. 科目の紹介・科目一覧」に記載しています。

基幹教育科目は、総合教養科目、初年次教育科目、情報リテラシー科目、外国語科目、特例科目、健康・スポーツ科学科目、基礎教育科目に分かれています。

(2) 専門科目…詳細は各学部・学域等発行の『要覧』を参照してください。

専門科目においては、各学部・学科、学域・学類の専門科目に加えて、学部・学域によっては共通科目を置き、それぞれの学問分野で共通に求められる知識や思考法等の知的な技法の修得等を目指します。専門科目の科目名、単位数、配当年次および必修・選択・自由科目の区分は、所属学科等の標準履修課程表を参照してください。

(3) 資格科目…詳細は『教職課程の手引』を参照してください。

教育職員免許状の取得に必要な教職科目を資格科目といいます。この科目の単位は進級要件や卒業要件の所要単位に含めることはできない場合があるので注意してください。教育職員免許状の取得を希望する学生は、教職課程に関する説明会に必ず出席し、『教職課程の手引』等を熟読してください。

(4) 副専攻科目…詳細は『副専攻ガイド』を参照してください。

副専攻とは、学生が所属する学部・学域の主専攻に加え、その区分を越えて主体的に興味、関心のある分野を学修する制度です。副専攻のために特別に開設した科目を副専攻科目といいます。

(5) 必修、選択および自由科目の区分

科目は必修、選択、自由科目の種類に区別され、各学部・学科等の定める要件を満たして履修する必要があります。

- 「必修科目」…所属学科・学類等の教育目的を達成するため、卒業要件として修得を必要としている科目。
- 「選択科目」…学生の履修目的に応じて選択し、修得単位を卒業要件に算入する科目。  
(選択必修科目を含む。)
- 「自由科目」…履修できるが卒業要件に算入しない科目。

(6) 遠隔授業について

一部授業は、授業支援システム (Moodle) 等によりオンラインで行うことがあります。

(7) 集中講義について

週1回の授業ではなく、短時間で授業を行う集中講義を開講することがあります。集中講義の開講日については、学生ポータル (UNIPA) により事前に周知します。集中講義の履修登録については、それぞれ前期・後期の履修登録期間中に登録してください。履修登録期間の時点で希望する集中講義の開講日が未定の場合でも、履修希望者は必ず履修登録をしてください。

(8) 履修に関する相談について

① オフィスアワー

各授業担当教員は、オフィスアワーを設定しています。これは、指定された曜日・時間には、事前に予約なしでも学生が教員のところに訪問し、履修に関することや授業中の疑問などを解決するための相談ができる時間のことです。なお、メールまたは授業支援システム (Moodle) 等で対応する場合もありますので、各授業のシラバスを参照し、大いに活用してください。

## ② その他相談窓口について

国際基幹教育機構開設科目については、本冊子やシラバスを参考にし、不明点等は基幹教育担当に相談してください。履修全般に関することについて相談等がある場合は、各学部・学域教務担当または担当教員等に相談してください。

## (9) 科目名称

科目名称の末尾に数字あるいは英字等の表現がある科目は、以下のルールに基づいています。

- 「〇〇論 1、2～」：科目内容に順序性がある科目群について使用します。ただし、必ずしも「1」の履修が「2」の履修の前提条件になっているとは限りませんので、履修にあたっては「Ⅲ. 科目の紹介・科目一覧」を確認するようにしてください。
- 「〇〇論 A、B～」：科目内容に順序性がない科目群について使用します。

## (10) キャンパスをまたぐ授業の履修について

原則として、国際基幹教育機構開設科目は、各学部・学域の主たる学びのキャンパスで開講される科目を履修してください。ただし、再履修科目、資格科目、副専攻科目、その他各学部・学域において必要と認められる科目については、主たる学びのキャンパス以外のキャンパスでの履修が許可されることがあります。

なお、個人的都合による理由で主たる学びのキャンパス以外の科目を履修することはできません。主たる学びのキャンパスについては、『履修登録の手引』を参照してください。

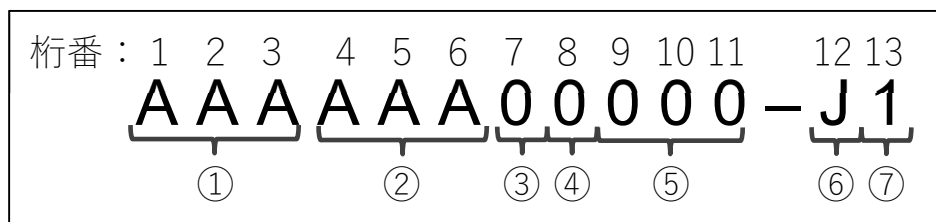
### ※森之宮キャンパスの開設について

2025 年秋の森之宮キャンパス開設に伴い、2025 年度後期からは基幹教育科目及び一部の専門科目が森之宮キャンパスで開講となります。また、基幹教育科目等を再履修する場合森之宮キャンパスに行かなければ履修できないことがあります。

詳細は学生ポータル (UNIPA) 又は授業時間割表を確認してください。

## 6. 科目ナンバリングのルール

科目ナンバリングは、教育課程の体系性を示すために、科目に記号と番号を組みあわせて付与することによって、科目の学問分野、カリキュラム内での位置づけを示す仕組みです。本学では、科目の属性に応じて、アルファベットと数字を組み合わせた 13 桁で構成された番号を、下記のとおり①開設部局・②学問分野・③科目レベル・④科目区分・⑤連番・⑥使用言語・⑦授業形態として各科目に付番しています。詳細は本学 Web サイトをご覧ください。



## 7. 履修登録

### (1) 履修登録

#### ① 学生ポータル (UNIPA) による履修登録

科目を履修するにあたっては、各学期はじめの定める期日まで(4月上旬・9月中旬)に学生ポータル (UNIPA) より履修登録をする必要があります。履修を考えている科目は全て履修登録期間に登録してください。

#### ② 登録上の諸注意

- 本冊子の「Ⅲ. 科目の紹介・科目一覧」および各学部・学域の『要覧』に記載されている標準履修課程表などをよく確認して登録してください。不合格となった科目の再履修は原則として次年度以降となりますが、一部の前期開講科目については、同一年度の後期に再履修できる場合があります。
- 同一曜日時限に、2科目以上を重複して履修登録することはできません。
- 既に単位を修得した科目を再び履修することはできません。
- 履修登録できる単位数には上限が設定される場合があります。詳しくは「9. 成績評語と GPA 制度・CAP 制」の項目を確認してください。
- 卒業・進級予定者が集中講義・単位互換科目等を履修する場合、開講日により進級・卒業判定の際の単位に含むことができない場合がありますので、履修登録時に各学部・学域教務担当窓口にご相談してください。

#### ③ 履修登録の確認

履修登録の締め切り後の履修登録確認日・抽選結果発表日に、学生ポータル (UNIPA) の「抽選希望登録対象一覧」画面および「学生時間割表」画面上にて抽選科目の抽選結果および履修登録内容の確認が可能になります。履修登録確認日・抽選結果発表日に登録内容を点検し、希望どおり正しく登録されているか確認してください。特に、エラーが出ている科目については、履修登録修正期間内に修正してください。

なお、抽選科目については、履修登録修正期間中に科目の追加・削除はできません。詳しくは (2) 抽選科目を参照してください。

※ 履修登録のスケジュール等について、詳しくは『履修登録の手引』を参照してください。

### (2) 抽選科目

基幹教育科目のうち、総合教養科目、初年次教育科目、外国語科目 (初修外国語) については、抽選希望登録が必要な科目です。登録方法は、『UNIPA 操作マニュアル (学生用)』を参照してください。抽選結果の発表日に、抽選結果および登録内容を確認してください。

なお、当選した科目は必ず履修してください (例外として、GPA 対象科目の履修中止制度により、履修中止が認められる場合があります)。

抽選結果発表後に、追加登録可能な科目については、学生ポータル (UNIPA) および学生 Navi に掲載します。

各科目区分における詳しい情報は、「Ⅲ. 科目の紹介・科目一覧」を参照してください。

### (3) クラス指定

基幹教育科目のうち、情報リテラシー科目、外国語科目 (英語)、健康・スポーツ科学科目、基礎教育科目 については、クラス指定があります。学生ポータル (UNIPA) および学生 Navi に各学部・学域別にクラス指定の表を掲載しますので、履修登録期間中に、指定のクラスを履修登録してください。なお、登録方法は、『UNIPA 操作マニュアル (学生用)』を参照してください。

### (4) シラバス

シラバスには、カリキュラムにおける科目の位置付けや授業の方法、授業概要、到達目標、授業計画、成績評価の方法等が記載されています。履修登録にあたっては、授業時間割・シラバス等を確認し、自身の学習計画を立ててください。

## 8. 成績評価・試験

### (1) 成績評価方法・単位の修得

履修科目の成績は、シラバスで授業科目ごとに示されている方法で各授業担当教員によって評価され、合格した科目に単位が与えられます。成績の評語については「9. 成績評語と GPA 制度・CAP 制」で記載します。成績は学生ポータル (UNIPA) で確認することができます (定められた期間を除く)。

### (2) 定期試験

単位の認定は基本的に試験の成績によって行われますが、試験を行わず、レポートや平常の成績等によって単位認定が行われることもあります。

試験を実施する場合は、原則として、授業期間終了後 (試験期間) に実施します。試験の時間割は学生ポータル (UNIPA) を確認してください。

### (3) 追試験・再試験

#### [追試験]

試験を欠席した理由が以下の項目に該当する場合には、追試験を行うことがあります。

- ① 学生が病気または負傷した場合
- ② 学生の親族が死亡した場合 (2 親等以内の親族または同居の親族に限る。)
- ③ 公共交通機関の遅延による場合
- ④ 学生が国家試験等を受験する場合
- ⑤ 学生が裁判員裁判へ参加する場合
- ⑥ その他やむを得ないものと認められた場合

追試験の受験を希望する学生は、所定の期間内に証憑書類を添えて国際基幹教育機構 (基幹教育担当) まで、願い出る必要があります。追試験の実施有無や受験方法等については、基幹教育担当まで問い合わせてください。

#### [再試験]

国際基幹教育機構開設科目の定期試験で不合格になった場合、再試験の実施はありません。

## 9. 成績評語と GPA 制度・CAP 制

### (1) 成績評語と GPA 制度

履修科目の成績は、下表の基準にもとづき評価され、発表は評語により行います。履修登録した各科目の成績に GP (Grade Point) を割り当てて、その平均を取ったものを GPA (Grade Point Average) といいます。学修の達成度を客観的に評価するための指標として学期ごとに算出され、卒業するために必要な単位をただ修得するのではなく、学生が主体的にかつ充実した学習効果をあげることが目的としています。GPA は学期ごとに、以下の数式により算出されます。

$$\text{GPA} = \frac{\text{(当該期で得た科目の GP 値} \times \text{その科目の単位数)の合計}}{\text{*当該期に履修登録した総単位数}}$$

(\*GPA 対象科目のみ)

評語	基準	100点方式による素点等	GP
AA	授業目標を大きく上回って達成できている	100点以下90点以上	4
A	授業目標を上回って達成できている	90点未満80点以上	3
B	授業目標を達成できている	80点未満70点以上	2
C	最低限の授業目標を達成できている	70点未満60点以上	1
F	最低限の授業目標を達成できていない	60点未満または成績評価基準に基づく評価をしない科目で不合格となった科目	0
T (取消)		試験等での不正行為	0
N (認定)		単位認定された科目	対象外
P (合格)		成績評価基準にもとづく評価をしない科目で合格となった科目	対象外

GPAの対象となる科目は、原則として履修登録した全ての科目です。ただし、卒業の所要単位に算入されない科目（資格科目等の自由科目）、上表の「単位認定された科目」、「成績評価基準にもとづく評価をしない科目で合格となった科目」はGPAから除かれます。また、成績証明書には、発行した時点での通算GPAが記載されます。

通算GPAは、以下の数式により算出されます。

$$\text{通算 GPA} = \frac{(\text{各学期で得た科目の GP 値} \times \text{その単位数}) \text{の合計}}{\text{*各学期で履修登録した単位数の合計}}$$

(\*GPA 対象科目のみ)

なお、履修登録の締切以降は、原則として変更はできません。ただし、以下に示す条件により履修を続けることが困難な場合、特別に履修中止を認める場合があります。

- ① 実際の授業の内容が公開されている「シラバス」と本質的に異なっている場合
- ② 授業についていけるだけの知識不足が発覚した場合

手続きの時期や方法など詳細については『履修登録の手引』を確認してください。

## (2) CAP 制

学期内で履修する科目について予習・復習の時間を確保するために、各年度・各学期に履修登録できる総単位数には、上限が設けられています。このことをCAP制（キャップ制）といいます。

1年次の履修上限は年間50単位未満、前期25単位以下、後期25単位以下の範囲で定められています。通年科目の単位数を計算するときは、通年科目の単位数を開講学期数で割ってそれぞれの学期に振り分けられます。詳細は所属学部・学域の『要覧』で確認してください。

原則として、卒業の所要単位に算入されない科目（資格科目等の自由科目）はCAP制の対象外となります。卒業の所要単位に算入される科目の中で、例外的にCAP制対象外となる科目もあります。国際基幹教育機構開設科目のCAP制対象外科目について、詳しくは本冊子の「Ⅲ. 科目の紹介・科目一覧」を確認してください。



## 10. 外国語科目（英語）の単位認定および（初修外国語）入門初級履修免除制度について

### (1) 外部試験等による英語の単位認定

高い英語能力を持った学生を対象に、外国語科目（英語）の単位認定を行う制度があります。単位認定を希望する学生は、期日までに基幹教育担当まで申請してください。申請した学生に対し、最終的に認定するかどうか判断を行います。

なお、認定された科目は履修することができないので注意してください。

#### <申請要項>

下記の条件のいずれかを満たしている場合、単位認定を申請できます。申請の際には、下記外部試験のスコアもしくは合格を証明する書類を提出してください。ただし、外部試験のスコア（合格）証明書は申請時から過去1年以内に受験したものに限りです。

- 条 件 : ① TOEIC Listening & Reading スコア 865 以上 (公開テスト・IPテスト)  
② TOEFL iBT スコア 83 以上  
③ IELTS オーバーオール・バンドスコア 6.0 以上  
④ ケンブリッジ英検 FCE 170 以上  
⑤ 英検 1 級

対象科目 : [必修科目] University English 1A、University English 2A、University English 3A  
[選択科目] TOEIC L&R、TOEFL A、TOEFL B

最大6科目6単位申請可能

※なお、国際教育機関の認定により入学した学生または海外で大学教育を終えている学生にかぎり、University English 1B、University English 2B の単位認定を申請できます。申請を希望する場合は、国際教育機関等の修了証明書を提出してください。この2科目の単位認定の審査では面接を実施します。

また、国際教育機関の認定により入学した学生または海外で大学教育を終えている学生で、上記条件①～⑤のいずれかを満たしている場合は、University English 1B、University English 2B を含めて最大6科目6単位まで申請できます。

申請期間 : 3月下旬～4月上旬および7月上旬～7月中旬 (年2回)  
詳細な日程は学生ポータル (UNIPA) にて掲載されますので、定期的に確認し、申請してください。

申請必要書類 : (1) スコア (合格) 証明書の PDF データ  
(2) University English 1B、2B を申請する学生は国際教育機関等の修了証明書

### (2) 入門初級履修免除制度

初修外国語 (朝鮮語・中国語・ロシア語・ドイツ語・フランス語) を学んだことのある学生で、指定する必要なレベル以上と認められる場合は、1年次科目 (入門・初級・基礎・応用) の履修を免除し、2年次科目 (中級レベル) を履修できます。詳細は新入生ナビ掲載の C-c. 外国語科目 (初修外国語) の入門初級科目の履修免除【要申請】を参照してください。

申請した学生に対し、各言語の教員が面接等を行い、最終的に1年次科目の履修を免除するかどうかを判断します。

ただし、初修外国語科目はゼロから始める外国語科目という意味であり、自分の第一言語 (母語) を初修外国語科目として履修することはできません。また、1年次科目の履修を免除するだけで、単位が認定されるわけではありません。

## 11. 定期試験受験心得

- (1) 試験開始までに入室し、試験監督者の指示に従ってください。
- (2) あらかじめ履修登録した科目のみ、受験することができます。
- (3) 受験に際しては、必ず学生証を持参し、着席した机の上に置いてください。学生証を忘れた場合は、事前に所属学部・学域教務担当窓口で仮受験票の交付を受けてください。これを忘れた場合は、受験を許可しないことがあります。
- (4) 試験を開始して30分経過後の遅刻者は受験を許可されません。
- (5) 試験を開始して30分を経過しなければ退出は許されません。
- (6) 机には、持ち込みを許可されたもの（教科書、ノートなど）がある場合を除いて、学生証、筆記具以外を置いてはいけません。
- (7) 携帯電話などの電子機器は、特に許可された場合を除き、電源を切り、かばんの中に入れてください。また、音を発する物（たとえば時計のアラーム）などで、他人に迷惑をかけてはいけません。
- (8) 受験中、学生相互間の物品（筆記具を含む）の貸借は一切認められません。また、私語をしてはいけません。
- (9) 配付された答案用紙には、所定の箇所に、学籍番号、氏名などを必ず記入してください。
- (10) 答案用紙は試験監督者から配付されたものを使用し、書き損じた答案用紙も全て提出してください。配付されたものは、許可されたもの以外は持ち帰ってはいけません。
- (11) 試験監督者が不正行為を認めた場合には、受験の停止、退室などを命ずることがあり、受験者はこれに従わなければいけません。
- (12) 対面試験と同様に遠隔試験についても一切の不正行為を禁じます。
- (13) レポート試験について、次の行為に対して不正行為とみなします。
  - ① 他者のレポートの一部または全部を書き写す行為
  - ② 他者にレポート作成を依頼する行為
  - ③ 他者に依頼されて本人の代わりにレポートを作成する行為
  - ④ レポートのデータや資料等を捏造または改ざんする行為
  - ⑤ その他、上記の不正行為に準ずる行為
- (14) 試験（遠隔試験、レポート試験も含む）で不正行為を行った学生に対しては、原則としてその試験実施日が属する学期に履修中の科目の成績を全て無効とします。
- (15) 不正行為を行った学生は、学則に基づいた懲戒処分（訓告、停学、退学）の対象になる事もあります。
- (16) いかなる試験においても、自己または他人のために不正行為をしてはいけません。

## 12. 成績評価についての異議申立

学生は、その学期の成績評価について、次のような場合に異議を申し立てることができます。

- (1) 成績の誤記入等、担当教員の誤りであると思われるもの
- (2) シラバス等により周知している成績評価の方法に照らして、評価結果等について疑義があるもの

国際基幹教育機構開設科目について、異議申立を行う場合、学生ポータル（UNIPA）に掲載する申立期間内に基幹教育担当へ申し出てください。なお、これは成績評価に納得がいけない者が、問い合わせ、また異議申立を行う制度ではないので、注意してください。

## 13. 休講・欠席について

(1) 気象条件の悪化、交通機関の運休等による授業の休講および定期試験の延期措置について

① 気象条件の悪化による授業の休講について

キャンパス所在地を含む地域に暴風（暴風雪）警報、または各種の特別警報が発令されているときは原則として当該キャンパスでの全ての授業を休講とします（定期試験を含む）。ただし、別表のとおり警報解除の時刻により、全部または一部の授業を行います。

授業中または試験中に、キャンパス所在地を含む地域に暴風（暴風雪）警報、または各種の特別警報が発令されているときは、原則として、実施中の授業・試験についてはそのまま行い、その次の時限から当該キャンパスでの授業は休講とします。

また、学外実習などは、前記事項を踏まえ担当教員の指示により授業を行わないことがあります。（実習施設の所在地を含む地域に暴風（暴風雪）警報、または各種の特別警報が発令されたときは実習を行いません）

なお、気象条件の悪化による授業の休講は、対面授業においてのみ適用されるものであり、遠隔授業においてはこの限りではありません。

② 交通機関の運休による授業の休講について

次の交通機関のいずれかが運休（事故等による一時的な運行停止を除く）の授業は原則として休講とします（定期試験を含む）。ただし、別表のとおり運行再開の時刻により、全部または一部の授業を行います。

また、交通機関の計画運休や運休見通し情報が発表された場合は、対象路線や運休期間等の発表内容に基づき、事前に休講とする場合があります。

なお、交通機関の運休による授業の休講は、対面授業においてのみ適用されるものであり、遠隔授業においてはこの限りではありません。

● 杉本キャンパス

- ・ JR 阪和線全線
- ・ JR 大阪環状線全線および Osaka Metro 御堂筋線全線が同時

● 中百舌鳥キャンパス

- ・ 南海高野線全線
- ・ JR 阪和線全線および南海本線全線が同時
- ・ JR 大阪環状線全線および Osaka Metro 御堂筋線全線が同時

● 阿倍野キャンパス

- ・ JR 阪和線全線と南海本線全線が同時
- ・ JR 大阪環状線全線と Osaka Metro 全線が同時
- ・ JR 大和路線全線と近鉄南大阪線全線が同時
- ・ JR 学研都市線全線と京阪本線全線が同時
- ・ JR 神戸線・京都線全線と阪神本線・阪急神戸線・京都本線全線が同時

● 羽曳野キャンパス

- ・ 近鉄南大阪線全線
- ・ 近鉄バスの藤井寺駅前～府立医療センター間と古市駅前～大阪府立大学羽曳野キャンパス・府立医療センター間の両方が同時
- ・ JR 大阪環状線全線と Osaka Metro 全線が同時

● りんくうキャンパス

- ・ JR 阪和線全線と南海本線全線が同時
- ・ JR 大阪環状線全線と Osaka Metro 全線が同時

● 梅田サテライト

- ・ JR 大阪環状線全線と Osaka Metro 全線が同時

- 森之宮キャンパス
  - ・ JR 大阪環状線全線と Osaka Metro 全線が同時
  - ・ JR 学研都市線全線と京阪本線全線が同時

③ 地震発生時の取扱い

キャンパス所在地を含む地域で震度 5 強以上の地震が観測された場合、該当するキャンパスでの当日の授業は休講とします。翌日以降は災害状況等を考慮の上、休講措置の有無を判断します。なお、地震が大阪府内当該地域以外で発生した場合または震度 5 強未満の場合は、公共交通機関の運行状況に応じて対応することとします。

また、地震を起因とする自然災害等により、避難に関する情報が発表された場合についても状況により休講等の対応を行うことがあります。

(注意事項) ①～③による休講措置がないにもかかわらず、外的要因により登下校が困難になる場合の措置については、⑥を参照してください。また、上記にかかわらず、自らの身の安全を最優先に行動してください。

④ 遠隔授業（同時双方向型に限る）において授業支援システム（Moodle）が停止した場合の休講について

授業支援システムが停止した場合は同時双方向型の授業に限り、原則として休講とします（授業担当教員から履修者へ個別の連絡がある場合は除きます）。ただし、別表のとおり授業支援システムの復旧の時刻により、全部または一部の授業を行います。また、遠隔授業（オンデマンド型）については休講の措置を行いません。

(別表)

- 杉本、中百舌鳥、阿倍野、羽曳野、りんくう、森之宮キャンパス

運行再開・警報解除 授業支援システムの復旧の時刻	休講となる授業	実施する授業
午前 7 時以前	—	全授業
午前 10 時以前	午前開始の授業	午後開始の授業
午前 10 時を過ぎても解除 されない場合	全授業	—

- 梅田サテライト（月～金）

運行再開・警報解除 授業支援システムの復旧の時刻	休講となる授業	実施する授業
午後 3 時以前	—	全授業
午後 3 時を過ぎても解除 されない場合	全授業	—

- 梅田サテライト（土）

運行再開・警報解除授 業支援システムの復旧の時刻	休講となる授業	実施する授業
午前 7 時以前	—	全授業
午前 10 時以前	午前開始の授業	午後開始の授業
午前 10 時を過ぎても解除 されない場合	全授業	—

⑤ その他注意事項

対面授業をオンライン中継する授業（ハイフレックス授業等）の取り扱いについては、対面授業を行っているキャンパスの授業が休講される場合にも同様に休講とします。

上記に挙げる理由以外にも、自然災害等によりキャンパスを含む所在地の避難に関する情報の発表や、Jアラート（全国瞬時警報システム）が発令された場合、学生の安全確保のために休講措置をとる場合があります。

なお、午前9時以降における授業の実施については、上記の取扱いを原則としつつ、状況に即して教育推進本部長が例外の判断をする場合があります。その際には、学生ポータル（UNIPA）により周知します。

⑥ 登下校が困難な場合の救済措置

上記により休講措置をとらない場合であっても、学生の居住地または通学経路にある地域で、次のいずれかに該当する事態が発生したことにより学生が授業等に出席できない場合（帰宅困難となる恐れがある場合含む）、後日、授業担当者に欠席届を提出し、配慮を申し出てください。

1. 居住地を含む地域における震度5強以上の地震が観測された場合
2. 居住地を含む地域における避難指示の発令
3. 居住地を含む地域における気象警報（暴風（暴風雪）警報、または特別警報）等の発表
4. その他災害等（居住地を含む地域または通学経路における上述の3事由に準ずる災害等）の発生
5. 通学経路上の交通機関の運休または大幅な遅延の発生

(2) 授業欠席時の取扱いについて

授業を欠席する場合、欠席理由（病気、各種実習、介護等体験、クラブ活動、忌引等）の如何を問わず原則として「欠席届」を授業担当教員に提出してください。授業科目の成績評価等の配慮については、授業担当教員の裁量によります。「欠席届」は、学生ポータル（UNIPA）>学生Navi>「授業・履修」からダウンロードできます。

また、「8. 成績評価・試験」の「(3) 追試験・再試験」に示す理由によって定期試験を欠席する場合は追試験を行うことがありますので、各科目の開設部局（各学部・学域等教務担当または基幹教育担当）に相談してください。

なお、以下の場合は特例として通常と対応が異なります。

- 学校感染症に指定されている感染症（季節性インフルエンザ・新型コロナウイルス感染症等）に罹患した場合、出席停止となり、速やかに大学に報告が必要となります。授業支援システム（Moodle）の「学校感染症罹患時報告」を確認し、報告してください。
- 裁判員制度に伴う裁判に出席する場合  
裁判員制度により裁判員（候補者）に選出され、裁判所に出頭するために授業を欠席しなければならない場合は、欠席届に加えて、裁判所からの呼出状(写)等を授業担当教員に提出することで、成績評価等についての配慮の対象となります。配慮の内容については、授業担当教員の裁量によります。

## 14. 修学上の配慮・支援

疾病・障がいおよび社会的障壁を有する学生で個別具体的な修学上の配慮・支援を必要とする場合は、アクセシビリティセンターもしくはアクセシビリティ支援委員に申し出てください。

- アクセシビリティセンター

中百舌鳥キャンパス A 3 棟 1 階 \*1 番窓口でお声がけください

TEL 072-254-9867

杉本キャンパス 学生サポートセンター1 階

TEL 06-6605-3650

※羽曳野キャンパス、りんくうキャンパスについては、中百舌鳥キャンパスへお問い合わせください。

※阿倍野キャンパスについては、杉本キャンパスへお問い合わせください。

E-mail: gr-gks-ac@omu.ac.jp (全キャンパス共通)

メールにてお問い合わせの場合は、所属キャンパス・学部／学域／研究科・学年・学籍番号を明記してください。

- アクセシビリティ支援委員 (下記HPを参照)

<https://www.omu.ac.jp/accessibilitycenter/>

## 15. 教育学習支援基盤「ていら・みす」での学修記録の記入

学ぶ力 (学習自己管理能力) を高めること、すなわち、

- 目標を意識しながら、学ぶこと
- 自分自身の学びを見つめる (ふり返る) 目を養うこと
- 学びについて得た気づきを、次の学修に生かすこと

を主な目的として、半期ごとに、教育学習支援基盤「ていら・みす」において、ポートフォリオ (学修記録) への記入を行います。「ていら・みす」へは、学生ポータル (UNIPA) からアクセスしてください。



### **III. 科目の紹介・科目一覧**







### III. 科目の紹介・科目一覧

次頁より、国際基幹教育機構が開設する科目の紹介・科目一覧〔2025年度開講予定科目〕を、科目区分ごとにまとめています。なお、各科目区分における学生ポータル (UNIPA) での抽選申請、クラス指定の有無、同一年度における同一名称科目の再履修の可否は下表のとおりです。

クラス指定「あり」の場合、学生ポータル (UNIPA) および学生 Navi にて掲載するクラス指定の表を参照のうえ、指定のクラスを履修してください（初修外国語科目を除く）。

同一年度における同一名称科目の再履修が「不可」の科目の再履修は、**原則、翌年度以降**になります。その際、クラス指定がある科目は、所属学部・学科、学域・学類に配当されたクラスを履修してください。

各科目の再履修クラスの詳細については、変更の可能性があるため、学生ポータル (UNIPA) および学生 Navi にて最新情報を確認してください。

〔表：抽選・クラス指定・同一年度の再履修について〕

科目区分	学生ポータル (UNIPA) 抽選の有無	クラス指定の有無	同一年度内の再履修
総合教養科目	あり	なし	可 (抽選で当選した場合)
初年次教育科目	あり	なし	不可
情報リテラシー科目	なし	あり	可 (後期に再履修クラスを履修)
英語科目 (必修)	なし	あり	可 (後期に再履修クラスを履修)
英語科目 (選択)	なし	なし	不可
初修外国語科目 (必修)	あり (コースおよび言語を選択)	あり (抽選後、大学にてクラス割り当て)	一部のコースは可 (後期に再履修クラスを履修)
初修外国語科目 (選択)	なし	なし	不可
特例科目	なし	なし	不可
健康・スポーツ科学科目	なし	あり	不可
基礎教育科目	なし	あり	不可
資格科目	なし	あり	可



## 1. 総合教養科目

### 〔カリキュラム概要〕

総合教養科目は、大学における学修・研究全般の基礎となる論理的思考力や表現力、広い視野に立った総合的な判断力の育成、現代社会に生きる人間に求められる実践的な倫理的態度、異なる地域・時代の他者や文化に対する尊重と共感の姿勢に裏打ちされた教養の修得を目的とするもので、全学的協力体制のもとに展開されます。

総合教養科目には、学び・考え・実践に結びつける価値のあるさまざまな主題に分かれた科目が用意されています。個々の問題関心に沿ってそれらを履修することによって、履修者はそれぞれの専門領域を深めていく際に求められる基礎的知識や技法を修得できるだけでなく、生涯を通じて柔軟に学び続けることの意義を理解し、絶え間なく変化する時代において世界市民として活躍するために欠かせない確かな教養と寛容の精神とを培うことができます。

### 〔科目の構成〕

総合教養科目には、思考力、表現力、判断力の基盤の上に、幅広い知識を総合的に活用できる能力を身に付けるための授業科目が用意されています。各科目はそれぞれの役割や特性に従って、「Ⅰ 基礎科目」・「Ⅱ 主題科目」・「Ⅲ キャリアデザイン科目」・「Ⅳ 数理・データサイエンス科目」の4つに分類されています。

- ア) 「Ⅰ 基礎科目」群では、「A 人文科学」・「B 社会科学」・「C 自然科学」・「D 大阪学」の区分を設け、諸学の基礎となる学問分野の代表的な科目を配置します。
- イ) 「Ⅱ 主題科目」群では、「A SDGs」・「B 人間・都市・社会」・「C 歴史と文化」・「D 自然と情報」という4つの区分の下に、個別的テーマを掘り下げて論じる科目を開講します。

基礎科目と主題科目では、それぞれの専門分野の教員が担当する多様な授業を通じて、幅広い学問分野を俯瞰しながら教養を身につけ深めていくことができます。

- ウ) 「Ⅲ キャリアデザイン科目」群には、キャリアデザイン能力の涵養、人権、共生、他者理解、インターンシップ等について学ぶ科目が配置され、初年次のみならず、後年次での履修にも適した内容となっています。この科目群では、キャリアデザインに求められる思考法、学び方、社会とのかかわり、ビジネス計画に関わる科目を配置し、学生が社会的および職業的自立を図るために必要な能力を培うことを目的として開講されます。
- エ) 「Ⅳ 数理・データサイエンス科目」群では、これからの時代の基盤となるデータサイエンスの基礎を身に付けるため、AIを使用する上で基本となる数学的モデリングを具体的な例で学ぶ科目、データサイエンスに求められる統計学の基本的な知識や分析方法を、応用事例を通じて学ぶ科目、データサイエンスを課題解決に向けたデータに基づく知識発展のサイクルと捉え、そのサイクルを構成するデータの記述、可視化、取得、管理、加工、解析などの要素技術と、サイクル中でのそれらの役割について学ぶ科目が開講されます。

### 〔履修上の注意〕

- 履修にあたっては、学生ポータル (UNIPA) による抽選希望登録が必要です。詳細は、『履修登録の手引』『学生ポータル (UNIPA) 操作マニュアル』を参照してください。
- 2025 年度前期は主たる学びのキャンパスで開講される科目を、2025 年度後期からは森之宮キャンパスで開講される科目を履修してください。
- 同一名称の科目が前期・後期の両学期に開講されている場合、同一年度に再履修することが可能です。詳細は、『履修登録の手引』を参照してください。

〔2025年度開講予定科目一覧〕

科目区分	科目コード	科目名	週時間数	単位数	授業形態	配当クラス	開講キャンパスおよび開講期			備考	
							杉本	中百舌鳥	森之宮		
							前期	前期	後期		
基礎科目	人文科学	1GAA001	哲学入門	2	2	(講)	全	○		○	
		1GAA002	倫理学入門	2	2	(講)	全	○	○	○	
		1GAA003	日本史の見方	2	2	(講)	全	○		○	
		1GAA004	東洋史の見方	2	2	(講)	全	○	○	○	
		1GAA005	西洋史の見方	2	2	(講)	全	○			
		1GAA006	考古学入門	2	2	(講)	全			○	
		1GAA007	言語学入門	2	2	(講)	全		○		
		1GAA008	日本語学入門	2	2	(講)	全			○	
	社会科学	1GAB001	日本国憲法	2	2	(講)	全	○	○	○	
		1GAB002	心理学入門	2	2	(講)	全	○	○		
		1GAB003	現代社会学入門	2	2	(講)	全		○	○	
		1GAB004	現代経済学入門	2	2	(講)	全			○	
		1GAB005	現代地理学入門	2	2	(講)	全	○			
		1GAB006	文化人類学入門	2	2	(講)	全	○		○	
		1GAB007	法学入門	2	2	(講)	全			○	
		1GAB008	政治学入門	2	2	(講)	全		○	○	
		1GAB009	ジェンダー論入門	2	2	(講)	全	○	○		
	自然科学	1GAC001	科学技術と社会	2	2	(講)	全		○		
		1GAC002	数学への招待	2	2	(講)	全			○	
		1GAC003	物理学への招待	2	2	(講)	全	○		○	
		1GAC004	化学への招待	2	2	(講)	全	○		○	
		1GAC005	生物学への招待	2	2	(講)	全	○	○		
		1GAC006	生物化学への招待	2	2	(講)	全	○			
		1GAC007	地球学への招待	2	2	(講)	全		○	○	
	大阪学	1GAD001	歴史のなかの大阪	2	2	(講)	全			○	
		1GAD002	関西文学論	2	2	(講)	全		○		
		1GAD003	地域文化学	2	2	(講)	全			○	
		1GAD004	大阪の自然	2	2	(講)	全			○	
		1GAD005	大阪の都市づくり	2	2	(講)	全	○	○		
		1GAD006	大阪落語への招待	2	2	(講)	全	○			
主題科目	SDGs	1GAE001	技術と環境	2	2	(講)	全			○	
		1GAE002	人体を考える	2	2	(講)	全	○			
		1GAE003	行動の生理科学	2	2	(講)	全			○	
		1GAE004	国際開発の課題	2	2	(講)	全			○	
		1GAE005	人間と居住環境	2	2	(講)	全	○			
		1GAE006	環境と経済	2	2	(講)	全			○	
		1GAE007	生命と進化	2	2	(講)	全			○	
		1GAE008	現代の医療	2	2	(講)	全	○			
		1GAE009	健康へのアプローチ	2	2	(講)	全	○			
		1GAE010	生命と環境	2	2	(講)	全			○	
		1GAE011	現代社会と健康	2	2	(講)	全	○		○	
		1GAE012	自然環境学概論	2	2	(講)	全			○	
		1GAE013	環境・生命・倫理	2	2	(講)	全		○		
人間・都市・社会	1GAF001	哲学的人間学	2	2	(講)	全		○	○		
	1GAF002	哲学と社会	2	2	(講)	全		○			
	1GAF003	人間と宗教	2	2	(講)	全	○		○		
	1GAF004	共生社会と宗教	2	2	(講)	全		○			
	1GAF005	教育と文化	2	2	(講)	全		○	○		
	1GAF006	心理学・認知科学と人間	2	2	(講)	全			○		

●備考欄に配当年次が記載されていない科目は、1年次配当です。  
 ●(講)は講義、(演)は演習、(実)は実験・実習の授業形態を表します。  
 ※UNIPA抽選申請対象外科目

科目区分	科目コード	科目名	週時間数	単位数	授業形態	配当クラス	開講キャンパスおよび開講期			備考
							杉本	中百舌鳥	森之宮	
							前期	前期	後期	
人間・都市・社会 主題科目	1GAF007	文化と社会の心理	2	2	(講)	全			○	
	1GAF008	認知のしくみ	2	2	(講)	全			○	
	1GAF009	行動と学習の心理	2	2	(講)	全			○	
	1GAF010	教育と発達心理学	2	2	(講)	全	○			
	1GAF011	子どもの生活と健康教育	2	2	(講)	全			○	
	1GAF012	社会科学のフロンティア	2	2	(講)	全			○	
	1GAF013	思想と社会	2	2	(講)	全		○	○	
	1GAF014	経済学の歴史と思想	2	2	(講)	全		○		
	1GAF015	戦争と人間	2	2	(講)	全	○		○	
	1GAF016	世界のなかの日本経済	2	2	(講)	全	○			
	1GAF017	現代日本の政治と経済	2	2	(講)	全			○	
	1GAF018	現代の経営	2	2	(講)	全	○			
	1GAF019	国際社会と法	2	2	(講)	全			○	
	1GAF020	国際社会と政治	2	2	(講)	全			○	
	1GAF021	暮らしと政治	2	2	(講)	全		○		
	1GAF022	都市的世界の社会学	2	2	(講)	全			○	
	1GAF023	現代文化の社会学	2	2	(講)	全		○	○	
	1GAF024	メディアの社会学	2	2	(講)	全			○	
	1GAF025	現代の社会問題	2	2	(講)	全	○			
	1GAF026	家族と社会	2	2	(講)	全	○		○	
	1GAF027	医療と社会	2	2	(講)	全		○		
	1GAF028	スポーツと社会	2	2	(講)	全		○		
	1GAF029	測定・実験で学ぶ人間と社会	2	2	(講)	全	○			
	1GAF030	観光研究入門	2	2	(講)	全	○			
	1GAF031	都市の地理学	2	2	(講)	全	○			
	1GAF032	都市の社会史	2	2	(講)	全			○	
	1GAF033	都市生活と人間福祉	2	2	(講)	全	○			
	1GAF034	バリアフリー論	2	2	(講)	全		○		
	1GAF035	現代都市論	2	2	(講)	全			○	
	1GAF036	都市の経済とビジネス-AI入門	2	2	(講)	全			○	
	1GAF037	都市・地域政策	2	2	(講)	全			○	
	1GAF038	国際地域経済と都市	2	2	(講)	全			○	
	1GAF039	都市研究の最前線	2	2	(講)	全			○	
	1GAF040	コミュニティ防災	2	2	(講)	全	○			
	1GAF041	現代の部落問題	2	2	(講)	全	○	○		
	1GAF042	メディアと人権	2	2	(講)	全	○			
	1GAF043	部落解放のフロンティア	2	2	(講)	全			○	
	1GAF044	部落差別の成立と展開	2	2	(講)	全			○	
	1GAF045	グローバル化と人権	2	2	(講)	全			○	
	1GAF046	障がい者と人権A	2	2	(講)	全	○			
	1GAF047	障がい者と人権B	2	2	(講)	全			○	
	1GAF048	企業と人権	2	2	(講)	全			○	
	1GAF049	地球市民と人権	2	2	(講)	全	○			
	1GAF050	労働と人権	2	2	(講)	全	○			
	1GAF051	平和と人権	2	2	(講)	全			○	
	1GAF052	ジェンダーと現代社会	2	2	(講)	全			○	
	1GAF053	クエアスタディーズ	2	2	(講)	全	○			
	1GAF054	エスニック・スタディ	2	2	(講)	全	○			
	1GAF055	コリアン・スタディーズ	2	2	(講)	全			○	

●備考欄に配当年次が記載されていない科目は、1年次配当です。  
●(講)は講義、(演)は演習、(実)は実験・実習の授業形態を表します。  
※UNIPA抽選申請対象外科目

科目区分	科目コード	科目名	週時間数	単位数	授業形態	配当クラス	開講キャンパスおよび開講期			備考
							杉本	中百舌鳥	森之宮	
							前期	前期	後期	
主題科目 歴史と文化	1GAG001	歴史を学ぶとは	2	2	(講)	全			○	
	1GAG002	日本社会の歴史	2	2	(講)	全	○			
	1GAG003	東洋社会の歴史	2	2	(講)	全		○	○	
	1GAG004	西洋社会の歴史	2	2	(講)	全			○	
	1GAG005	現代の歴史	2	2	(講)	全			○	
	1GAG006	ことばの歴史	2	2	(講)	全	○	○		
	1GAG007	英語学	2	2	(講)	全			○	
	1GAG008	世界のなかの英語	2	2	(講)	全			○	
	1GAG009	ヨーロッパの多言語社会	2	2	(講)	全			○	
	1GAG010	日本の古典文学	2	2	(講)	全	○	○	○	
	1GAG011	物語文学を読む	2	2	(講)	全			○	
	1GAG012	世界の文学	2	2	(講)	全	○			
	1GAG013	中国古典文学への招待	2	2	(講)	全		○		
	1GAG014	ヨーロッパの文学	2	2	(講)	全		○		2025年度は不開講
	1GAG015	文学と社会	2	2	(講)	全			○	
	1GAG016	日本の近代文学	2	2	(講)	全	○	○		
	1GAG017	近代社会と読書	2	2	(講)	全			○	
	1GAG018	芸術の世界	2	2	(講)	全	○			
	1GAG019	東洋美術史	2	2	(講)	全		○		
	1GAG020	美術史	2	2	(講)	全	○		○	
	1GAG021	音楽の諸相	2	2	(講)	全	○			
	1GAG022	音楽と生活	2	2	(講)	全		○		
	1GAG023	造形と生活	2	2	(講)	全		○		
	1GAG024	アーツマネジメント	2	2	(講)	全	○			
	1GAG025	音楽と対話	2	2	(講)	全	○			
	1GAG026	コミュニケーションの諸相と文化	2	2	(講)	全			○	
	1GAG027	アイデンティティと文化	2	2	(講)	全		○		
	1GAG028	国際文化の視点	2	2	(講)	全			○	
	1GAG029	環境と文化	2	2	(講)	全	○			
	1GAG030	観光と文化	2	2	(講)	全			○	
	1GAG031	中国の思想	2	2	(講)	全		○		
	1GAG032	ヨーロッパ文化史	2	2	(講)	全			○	2025年度は不開講
	1GAG033	ヨーロッパ事情	2	2	(講)	全			○	2025年度は不開講
	1GAG034	新西洋事情	2	2	(講)	全		○	○	
	1GAG035	西洋社会文化史	2	2	(講)	全		○		
	1GAG036	西洋宗教文化史	2	2	(講)	全		○		
	1GAG037	西洋教育文化史	2	2	(講)	全			○	
	1GAG038	フィランソロピー学入門	2	2	(講)	全			○	
	1GAG039	比較文化社会論	2	2	(講)	全			○	
	1GAG040	日本事情A	2	2	(講)	全		○		
	1GAG041	日本事情B	2	2	(講)	全			○	
	1GAG042	英語で学ぶ日本事情	2	2	(講)	全			○	

●備考欄に配当年次が記載されていない科目は、1年次配当です。  
●(講)は講義、(演)は演習、(実)は実験・実習の授業形態を表します。  
※UNIPA抽選申請対象外科目

科目区分	科目コード	科目名	週時間数	単位数	授業形態	配当クラス	開講キャンパスおよび開講期			備考
							杉本	中百舌鳥	森之宮	
							前期	前期	後期	
主題科目 自然と情報	1GAH001	社会に生きる科学	2	2	(講)	全		○		
	1GAH002	現代科学と人間	2	2	(講)	全	○		○	
	1GAH003	心と脳	2	2	(講)	全			○	
	1GAH004	行動と視機能	2	2	(講)	全		○		
	1GAH005	データリテラシー	2	2	(講)	全			○	
	1GAH006	植物の科学	2	2	(講)	全	○			
	1GAH007	地図と地理情報	2	2	(講)	全			○	
	1GAH008	情報と社会	2	2	(講)	全			○	
	1GAH009	社会におけるネットワーク	2	2	(講)	全			○	
	1GAH010	社会と統計	2	2	(講)	全	○			
	1GAH011	植物と人間	2	2	(講)	全	○			CAP対象外
	1GAH012	コンピューターグラフィックス概論	2	2	(講)	全		○		
	1GAH013	工学研究の最先端	2	2	(講)	全		○		CAP対象外/※
	1GAH014	創薬科学のすすめ	2	2	(講)	全	○	○		
	1GAH015	植物園で学ぶ植物の多様性	2	2	(講)	全			○	CAP対象外
キャリアデザイン科目	1GAJ001	現代社会におけるキャリアデザイン	2	2	(講)	全			○	
	1GAJ002	キャリアと実践	2	2	(講)	全			○	CAP対象外/※
	1GAJ003	国際活動とキャリア	2	2	(講)	全	○	○	○	CAP対象外/通年集中講義/※
	1GAJ004	大学でどう学ぶか	2	2	(講)	全	○	○		
	1GAJ005	現代社会と大学	2	2	(講)	全		○		
	1GAJ006	市民・学生のための大学評価論	2	2	(講)	全			○	
	1GAJ007	世界の大学と学生	2	2	(講)	全			○	
	1GAJ008	グローバル経営論	2	2	(講)	全			○	
	1GAJ009	社会と会計	2	2	(講)	全			○	
	1GAJ010	国際ビジネス	2	2	(講)	全	○			
	1GAJ011	学びのデータから見る大学	2	2	(講)	全			○	
	1GAJ012	プレゼンテーション技法	2	2	(講)	全	○		○	
	1GAJ013	研究者の世界へ	2	2	(講)	全			○	
	1GAJ014	高年次ゼミナール	2	2	(講)	全	○	○		3年次配当科目
	1GAJ015	キャリアと実践2	2	2	(講)	全		○		CAP対象外/2年次配当科目/※
	1GAJ016	金融リテラシー	2	2	(講)	全			○	
数理・データサイエンス科目	1GAK001	数理・データサイエンス基礎A	2	2	(講)	全			○	
	1GAK002	数理・データサイエンス基礎B	2	2	(講)	全	○		○	
	1GAK003	数理・データサイエンス基礎C	2	2	(講)	全			○	
	1GAK004	数理・データサイエンス	2	2	(講)	全			○	

- 備考欄に配当年次が記載されていない科目は、1年次配当です。
- (講)は講義、(演)は演習、(実)は実験・実習の授業形態を表します。
- ※UNIPA抽選申請対象外科目





## 2. 初年次教育科目

### 〔カリキュラム概要〕

大学は教育機関であると同時に研究機関でもあります。そのような場所での学びには、研究的な要素が重要になりますし、それが大学で学ぶことの醍醐味でもあります。このことを具体化した初年次教育科目として、1年次全学生必修の「初年次ゼミナール」を開講します。

総合大学である大阪公立大学の教員による多様なテーマのゼミナールが約200クラスあり、15名程度を基本とする少人数クラスで、様々な学部・学域に所属する学生が交流・協同して、能動的な学修を行います。

グループディスカッションを通じた課題発表、プレゼンテーションやレポートによる自己表現、異なる視点との出会いによる自己の振り返り、複数の学部・学域の学生と教員とによる多様な視点の交換を行い、時には唯一の正解のない問題とも格闘することで、「大学でこそその学び」のためのスキルと主体的な学修姿勢を身につけてください。

### 〔科目の構成〕

- 初年次ゼミナールは、全ての学部・学域の学生にとって必修科目です。初年次ゼミナールの単位を修得しなければ卒業ができません。万一、1年次前期に単位を修得できなかった場合は2年次以降の前期に再履修クラスを履修する必要があります(ただし、開講クラス数に限りがあるため、選択肢が大幅に限定されます)。
- 多くのクラスが開講されますが、そのうち1つを履修します(2つ以上履修することはできません)。
- 各クラスで取り上げるテーマはP28～P31の表のとおりです。履修を希望するクラスについて、より詳しい授業概要が知りたい場合は、学生ポータル(UNIPA)でシラバスを確認してください。
- 履修登録にあたっては、学生ポータル(UNIPA)による抽選希望登録が必要です。詳細は本冊子のP7および『履修登録の手引』を確認してください。登録の期日もありますので、注意してください。
- 杉本キャンパスで開講するクラスと中百舌鳥キャンパスで開講するクラスがありますが、学生は主たる学びのキャンパス以外で開講されるクラスを履修することはできません(再履修クラスは森之宮キャンパスで開講されます)。
- 初年次ゼミナール以外の必修科目や専門科目は、学部・学域ごとの時間割配置によって異なるため、初年次ゼミナールを履修できる曜日・時限は限定されます。所属学部・学域の時間割等で確認してください。
- 初年次ゼミナール、総合教養科目、初修外国語など抽選によって決定される科目は、当選すると取消や変更はできませんので、十分に検討して、確認したうえで抽選申請を行ってください。

### 〔履修上の注意〕

- クラスによっては、フィールドワークに行くための交通費や制作物を作るための材料費などの費用負担がある場合があります。シラバスを確認してください。
- クラスによっては、フィールドワークや実験、実習などのため、普段の教室以外の場所や普段の授業時間以外の日時に授業がある場合もあります。シラバスおよび教員からの指示をよく確認しておいてください。
- 教室の外での活動を行うクラスもあります。万一の事故に備えて、各自で保険(学生教育研究災害障害保険〔学研災〕および同付帯保険や学生総合共済など)に加入しておいてください。

## 〔履修上のアドバイス〕

- 初年次ゼミナールの履修を終えた先輩学生から、新入生のみなさんへの履修登録にあたってのアドバイスをまとめたものを、以下に掲載します。クラスの選択に際して、ぜひ参考にしてください。

### 【先輩からのアドバイス】

#### ～クラスの選び方について～

- ・自分の学部の分野関係なく、別の興味がある内容を選ぶことをお勧めします。この方法は割と少数派で、みんな学部に関係のあるものを選択するため、自分の別分野に行くことで、自分の知識がない分野の話が、知識をたくさん持っているほかの学生からたくさん聞けるのでお勧めです。
- ・初ゼミを受講する際は、自分にとって興味のあるものを選ぶとよいと思います。受講をすることで、与えられたテーマに対してどのように解決策を見つけるかを学ぶことができるので、ぜひ受講してほしいと思います。
- ・興味のある分野の初年次ゼミナールを選ぶといい。他学部の人と交流できるチャンスなので、積極的に活動して欲しい。少人数なので、仲が深まりやすい。プレゼンテーションや論文の書き方など、これから大学で必要になるスキルを学ぶことができる。
- ・自分の得意不得意をしっかりと考えて取るべきだと思う。私はレポートを書くよりもプレゼンで発表する方が好きだったので、発表メインの初ゼミを選んだ。自分に合わせた初ゼミを取ることで楽しみながらたくさんのことを学ぶことができると思う。

#### ～授業の受け方について～

- ・ラーニングセンターが発行している「学びの Tips」を積極的に活用することをおすすめします！
- ・初ゼミを決めた後、どのようなことを調べたいかをあらかじめ考えておいたほうがよい。そのテーマは現実的なほうがよい。
- ・自分の考え方やアイデアなどがどのように変わっていったのかメモを取っておくとあとから自分の意見を整理しやすい。またプレゼンにおいてもレポートにおいても、自分の意見の中心つまり一番大事な部分はどこか常に意識しながら進めると一貫性を保ちやすい。
- ・レポートや発表の流れを体験できるいい機会なので、文献を調べるのを面倒に思わず、また興味の有無に関わらずとりあえずやってみるといいと思います。
- ・レポートを作成する能力は初ゼミ以外の授業でも必要なので、しっかりと取り組んでほしい。また、情報リテラシーなど他の授業で学んだ Word や PowerPoint の使い方も活用すると良い。
- ・初年次ゼミナールで学んだことが他の講義でも生かせることが多くあったため、さまざまなことを積極的に学ぼうという姿勢で頑張してほしいと思います。
- ・初年次ゼミナールは初めとても緊張するが、何回もプレゼンを重ねるごとに慣れてくるし、先生がしっかりと添削してくれるのでレポートの書き方を改善することができた。友達と協力して作成するときもあるので気を楽しんで受けてほしい。

～他のゼミ生とのコミュニケーション～

- ・グループなどで活動する機会が多いと思うが、積極的にコミュニケーションをとっていった方がいいと思う。レポートや発表用のスライドの作成など思っていたより課題が多く、授業で完結するものではなかったので、できれば一人あるいはグループで授業外に時間をとった方がいいと思う。
- ・ぜひ、学生同士のディスカッションに積極的に参加してください。私が受講した初年次ゼミナールではその機会が多く設けられており、中高の頃とは比べ物にならないくらい有意義な話し合いをすることができました。
- ・対話することで自分の考えをブラッシュアップすることができるので積極的に会話してほしい。

**【初年次ゼミナールを受けて良かったこと】**～少人数・グループワークの醍醐味～

- ・初年次ゼミナールでは少人数で話し合いをすることができるので、自分の考えを深める場としていいなと思いました。
- ・少人数でのグループ活動は全員が責任感を持って出来た上に、授業時間外にも共に作業することで本当に絆が深まったと感じます。サークルや部活動などとはまた違った、大事な人達と出会えました。本当に楽しかったです。
- ・発表が多くて大変だったのですが、グループで行うものが多かったので他の人と話す機会が多くて楽しかったです。先生との距離も近くて良かったです。普段関わる機会の無い他学部の子とも仲良くなれました。
- ・グループワークの時間が多く取られていたのがありがたかったです。他の学生さんの考えは、聞いていてハッとさせられるような鋭いものが多く、とても有意義なディスカッションをすることができました。

～大学の学びを知る～

- ・普段自分の考えない観点から色々調べ、考えを深めることができたので、自分の成長も感じることができ、とても充実した初ゼミとなりました。
- ・なんとなく考えていたことをより明確にすることができました。自分の考えを深めるだけでなく、信頼できる資料を集めたり、論理的な展開のスライドか確認したり、他者に正確に伝えようという意識を持つようになりました。
- ・レポートを書くときにいろいろな人の意見をまとめる力がついたと思う。また、上手に書いている子の表現を真似たり、先生の添削でより良いレポートの書き方を知ったりすることができた。
- ・レポートの構成の作り方や、参考文献の書き方など、レポート作成の基礎をしっかりと教えてもらったのが良かったです。また、教室外での活動があったのも良かったと思います。

〔2025年度開講予定科目一覧〕

科目区分	科目名	授業テーマ	代表教員	週時間数	単位数	授業形態	開講キャンパスおよび開講期			
							杉本		中百舌鳥	
							前期	後期	前期	後期
初年次教育科目	初年次ゼミナール	企業データ分析	陳 潔ティン	2	2	(演)	月2			
		「歩行」を科学する	淵岡 聡	2	2	(演)	月2			
		住まいの安全を考える	生田 英輔	2	2	(演)	月2			
		高分子材料と環境問題	岡村 晴之	2	2	(演)	月2			
		One healthについて考えよう	塚本 雅也	2	2	(演)	月2			
		社会に対する複眼的視点	小田中 章浩	2	2	(演)	火1			
		大阪・関西の刑事事件判例研究	徳永 元	2	2	(演)	火1			
		都市の近代化を考える	彭 浩	2	2	(演)	火1			
		世界経済・日本経済と社会の全体像を観る	吉田 素教	2	2	(演)	火1			
		GISを使って地域のことを考えよう	根本 達也	2	2	(演)	火1			
		生きた都市、生きた建築に触れる、感じる	嘉名 光市	2	2	(演)	火1			
		医療機器を開発して販売する！	寺井 秀富	2	2	(演)	火1			
		人権と差別について考える	廣岡 浄進	2	2	(演)	火1			
		元素の科学	谷口 暢一	2	2	(演)	火1			
		法学の基礎	川村 行論	2	2	(演)	火1			
		知のリソースに親しむ	草生 久嗣	2	2	(演)	火2			
		地理情報の利活用を考えてみよう	木村 義成	2	2	(演)	火2			
		民事判例を読む	杉本 好央	2	2	(演)	火2			
		ジェンダー法学	勝田 卓也	2	2	(演)	火2			
		史料から考える日本経済の仕組み	崎島 達矢	2	2	(演)	火2			
		ゲーム理論で社会問題を考える	内藤 克幸	2	2	(演)	火2			
		ロジカルシンキングと事業企画書の作成	小嶋 宏文	2	2	(演)	火2			
		生物をマクロとミクロの視点で考えよう	山口 良弘	2	2	(演)	火2			
		建築の見方を考える	鈴木 裕介	2	2	(演)	火2			
		デザイン・コンピューティング	小林 祐貴	2	2	(演)	火2			
		初歩からの中国経済	堀口 正	2	2	(演)	火2			
		大学って何だろう	深野 政之	2	2	(演)	火2			
		『古今和歌集』を読み解く	山本 真由子	2	2	(演)	火3			
		教育を経済学の視点から考える	近藤 真司	2	2	(演)	火3			
		会計情報からマネジメントの基礎を学ぶ	辻 峰男	2	2	(演)	火3			
		仕事をつうじて社会の問題解決を考える	松尾 健治	2	2	(演)	火3			
		生活習慣病を知る・考える	竹中 延之	2	2	(演)	火3			
		地震災害を考えよう	角掛 久雄	2	2	(演)	火3			
		うつ病を知り、予防しよう	井上 貴雄	2	2	(演)	火3			
		「イエ」とは何か？	上田 博之	2	2	(演)	火3			
		スポーツとウェルビーイング(Well-being)	松竹 貴大	2	2	(演)	火3			
		スポーツの楽しみ方を考える	荻田 亮	2	2	(演)	火3			
		杉本キャンパスと周辺の歴史を探る	仁木 宏	2	2	(演)	火4			
		社会・経済を経済学で読み解いてみよう	宇野 浩司	2	2	(演)	火4			
		公共交通にかかわる諸問題について考える	浦西 秀司	2	2	(演)	火4			
		J.-J. ルソー『社会契約論』を読み解く	中村 健吾	2	2	(演)	火4			
		大学における勉強法を身につけよう	ト 志強	2	2	(演)	火4			
		経営の本を読む	高木 修一	2	2	(演)	火4			
		移動のバリアフリー拡充をデザインしよう	内田 敬	2	2	(演)	火4			
		サステナビリティ報告書を読み解こう	貫上 佳則	2	2	(演)	火4			
働く人の健康を考える	林 朝茂	2	2	(演)	火4					
住宅の質的しくみ	渡部 嗣道	2	2	(演)	火4					
理想の学び場・学校を設計してみよう	西垣 順子	2	2	(演)	火4					
大学で学び考える基本を身につけよう！	飯吉 弘子	2	2	(演)	火4					
大学での基本的な学び方を身につける	橋本 智也	2	2	(演)	火4					
興味関心を「縦と横と」に編み上げる	平 知宏	2	2	(演)	火4					
身体運動から紐解く健康へのアプローチ	今井 大喜	2	2	(演)	火4					
健康情報との付き合い方	中村 雅美	2	2	(演)	火5					
経済現象の因果関係の統計的検証	小川 亮	2	2	(演)	火5					
体験学習をしてみよう、体験学習教材を	上野山 達哉	2	2	(演)	火5					
環境を取り巻く「がん」の原因	鈴木 周五	2	2	(演)	火5					

●(講)は講義、(演)は演習、(実)は実験・実習の授業形態を表します。

科目区分	科目名	授業テーマ	代表教員	週時間数	単位数	授業形態	開講キャンパスおよび開講期			
							杉本		中百舌鳥	
							前期	後期	前期	後期
初年次教育科目	初年次ゼミナール	食を取り巻く課題について考えよう	市川 直樹	2	2	(演)	火5			
		住まいから考える	福田 美穂	2	2	(演)	火5			
		地域における居場所づくりを考える	山東 愛美	2	2	(演)	火5			
		食の未来について考えると何が見える？	三宅 真実	2	2	(演)	火5			
		私たちを取り巻く微生物の働きとその制御	細見 晃司	2	2	(演)	火5			
		実験で解き明かす心と文化	橋本 博文	2	2	(演)	木2			
		憲法から考える日本の統治構造	高田 倫子	2	2	(演)	木2			
		暮らしの中の民法を学ぶ	藤井 徳展	2	2	(演)	木2			
		経営分析の実行と分析結果のプレゼンテーション	新井 康平	2	2	(演)	木2			
		場づくりの実践	西野 雄一郎	2	2	(演)	木2			
		粟について考えよう	富田 修平	2	2	(演)	木2			
		ライフコースの視点から栄養と食を考える	福村 智恵	2	2	(演)	木2			
		マクロな視点で微生物を科学する	和田 崇之	2	2	(演)	木2			
		栄養代謝による細胞の運命決定を考察する	金 東浩	2	2	(演)	木2			
		2025年のノーベル賞受賞者を予想する	川上 洋司	2	2	(演)	木2			
		「良い人生」について考える	島村 俊介	2	2	(演)	木2			
		日本企業のアジアビジネスを研究する	鈴木 洋太郎	2	2	(演)	木4			
		自己決定権入門	王 晨	2	2	(演)	木4			
		日本型政治経済システムについて考える	稗田 健志	2	2	(演)	木4			
		予測と因果推論のための回帰分析	鹿野 繁樹	2	2	(演)	木4			
		金融入門	立花 実	2	2	(演)	木4			
		空間情報を使って考える持続可能な社会	米澤 剛	2	2	(演)	木4			
		都市ギャラリーをつくらう	中條 壮大	2	2	(演)	木4			
		喫煙とがんを考える	宗 淳一	2	2	(演)	木4			
		日常生活を活動動作の観点から科学する	内藤 泰男	2	2	(演)	木4			
		健康と栄養・食生活の関りを考える	高橋 孝子	2	2	(演)	木4			
		サブリメントー情報の交通整理に挑戦ー	木下 明美	2	2	(演)	木4			
		ミクロ経済学・計量経済学の視点	北原 稔	2	2	(演)	木5			
		顔面とは	元村 尚嗣	2	2	(演)	木5			
		環境をテーマに論理的思考を学ぶ	久保 彰宏	2	2	(演)	木5			
		わが国の少子高齢化を経済学で考える	滋野 由紀子	2	2	(演)	木5			
		経済学と気候変動	七條 達弘	2	2	(演)	木5			
		スマホを通して考える私たちの経済社会	岩熊 典乃	2	2	(演)	木5			
		事業計画を作成しよう	清田 匡	2	2	(演)	木5			
		ライフスタイルから未来のまちを考える	高木 悠里	2	2	(演)	木5			
		20年後の医療を考える	藤原 靖弘	2	2	(演)	木5			
		空き家活用による拠点づくり	小池 志保子	2	2	(演)	木5			
		食品添加物は必要ですか	山崎 伸二	2	2	(演)	木5			
		ニュース記事から法学に触れる	吉原 知志	2	2	(演)	金4			
		地図から読み解く経済と社会	立見 淳哉	2	2	(演)	金4			
		都市経営に関わる多様な課題を考える	五石 敬路	2	2	(演)	金4			
		バイオ工学について考えてみよう	東 秀紀	2	2	(演)	金4			
		「左と右」を考える	宮井 和政	2	2	(演)	金4			
		子どもの発達と発達障がい	立山 清美	2	2	(演)	金4			
		スポーツと栄養	高尾 理樹夫	2	2	(演)	金4			
隠匿情報検査を学んで行動科学に触れる	緒方 康介	2	2	(演)	金4					
共生社会に向けた精神障害へのアプローチ	大西 次郎	2	2	(演)	金4					
テーマ「企業の真の姿を探る」	浅野 信博	2	2	(演)	金5					
パソコンを活用しながら学ぶベイズ統計学	中山 雄司	2	2	(演)	金5					
「古民家vsタワマン」どちらに住みたい？	徳尾野 徹	2	2	(演)	金5					
記憶を司る海馬のはたらきを知ろう！	水関 健司	2	2	(演)	金5					
食と生命のかかわり	岩城 俊雄	2	2	(演)	金5					
住まいと身近なまちを考える	小伊藤 亜希子	2	2	(演)	金5					
身の回りの不思議・疑問を深掘りする	小林 中	2	2	(演)	金5					
<再履修クラス(2年次以上)>	西垣 順子	2	2	(演)	水5					
<再履修クラス(2年次以上)>	橋本 智也	2	2	(演)	木2					

●(講)は講義、(演)は演習、(実)は実験・実習の授業形態を表します。

科目区分	科目名	授業テーマ	代表教員	週時間数	単位数	授業形態	開講キャンパスおよび開講期			
							杉本		中百舌鳥	
							前期	後期	前期	後期
初年次教育科目	初年次ゼミナール	アニメを通して思春期の心理を考える	川部 哲也	2	2	(演)			火1	
		環境に優しいシステムを考える	山崎 晴彦	2	2	(演)			火1	
		変動するもの、振動するものを考える	新谷 篤彦	2	2	(演)			火1	
		生活における通信について考える	山田 誠	2	2	(演)			火1	
		情報通信システムのしくみ	小山 長規	2	2	(演)			火1	
		品種改良についての教育ツールを作ろう!	山口 夕	2	2	(演)			火1	
		生活における酵母の関わり方	岸田 正夫	2	2	(演)			火1	
		ひとの生活と健康について考える	細名 水生	2	2	(演)			火1	
		ビッグデータから見る大阪人の口の中	大槻 奈緒子	2	2	(演)			火1	
		がん予防をしながら健康に生きる	林田 裕美	2	2	(演)			火1	
		身体のセルフコントロールを探求する	吉武 信二	2	2	(演)			火2	
		ビジネス書・経済ニュースを読みこなそう	下村 卓	2	2	(演)			火2	
		科学的思考事始	中村 雅夫	2	2	(演)			火2	
		「歩く」を探る	瀧山 武	2	2	(演)			火2	
		ガソリン車と電気自動車:どっちに乗る?	中谷 隼人	2	2	(演)			火2	
		よい音について考えよう	高比良 裕之	2	2	(演)			火2	
		会話ロボットの医療応用を考えてみよう	野口 博史	2	2	(演)			火2	
		考えよう、未来のエネルギー源	樋口 栄次	2	2	(演)			火2	
		機能性色素の世界 -過去から未来へ-	八木 繁幸	2	2	(演)			火2	
		物質・材料の機能性と科学	鈴木 通人	2	2	(演)			火2	
		カーボンニュートラルについて考える	床波 志保	2	2	(演)			火2	
		微生物の功罪を考える	谷 修治	2	2	(演)			火2	
		参加型学習ノススメ	藤枝 伸宇	2	2	(演)			火2	
		宇宙で生きる	遠藤 良輔	2	2	(演)			火2	
		異次元の少子化対策を考えてみよう	清水 彩	2	2	(演)			火2	
		いつかママ・パパになるための健康管理	渡邊 香織	2	2	(演)			火2	
		足元の雑草を調べて環境問題を考える	中山 祐一郎	2	2	(演)			火3	
		海洋ごみ問題を考える	千葉 知世	2	2	(演)			火3	
		人工知能で自然知能を賢くする	黄瀬 浩一	2	2	(演)			火3	
		問題解決のためのシステム工学	有馬 正和	2	2	(演)			火3	
		地球環境は良くなっているか	大久保 雅章	2	2	(演)			火3	
		植物工場デジタルツイン	福田 弘和	2	2	(演)			火3	
		科学的な計画や意思決定の方法を学ぼう	森田 大輔	2	2	(演)			火3	
		人をはかる装置について考えてみよう	吉本 佳世	2	2	(演)			火3	
		暮らしの中の放射線を探る	朝田 良子	2	2	(演)			火3	
		身近な温度の計測から都市温暖化を考える	植山 雅仁	2	2	(演)			火3	
		食と健康を仕組みから考える	西浦 芳史	2	2	(演)			火3	
		発達障害をもつ子どもへの支援について	奥野 裕子	2	2	(演)			火3	
		障がい者同士の仲間意識を考える	田垣 正晋	2	2	(演)			火4	
		モノ・コト創出〜デザイン思考の活用〜	辻井 利昭	2	2	(演)			火4	
		持続可能なキャンパス環境を考えよう	中谷 直樹	2	2	(演)			火4	
		海洋資源エネルギーの開発について考える	橋本 博公	2	2	(演)			火4	
		近未来の交通手段について考えよう	山崎 友裕	2	2	(演)			火4	
失敗と事故について考える	脇本 辰郎	2	2	(演)			火4			
暮らしのなかの最適化を考える	森澤 和子	2	2	(演)			火4			
ADASから自動運転へ:現状と課題の調査	江 易翰	2	2	(演)			火4			
身の回りの安全と衛生について考えよう	小嶋 崇夫	2	2	(演)			火4			
都市での新しい農業を考える	横井 修司	2	2	(演)			火4			
動物について考える	高橋 朋子	2	2	(演)			火4			
21世紀型互助システムの創出	岡野 明美	2	2	(演)			火4			
外国人ケア労働者との協働について考える	益 加代子	2	2	(演)			火4			
感染症と健康管理	安本 理抄	2	2	(演)			火4			
オルタナティブな学び方・生き方の可能性	吉田 敦彦	2	2	(演)			火4			

●(講)は講義、(演)は演習、(実)は実験・実習の授業形態を表します。

科目区分	科目名	授業テーマ	代表教員	週時間数	単位数	授業形態	開講キャンパスおよび開講期			
							杉本		中百舌島	
							前期	後期	前期	後期
初年次教育科目	初年次セミナー	微小重力環境で実験してみよう!	瀬川 大資	2	2	(演)			火5	
		風景はどのようにして生まれるか	武田 重昭	2	2	(演)			火5	
		水問題を解決するには何を学ぶべきか?	中桐 貴生	2	2	(演)			火5	
		音楽伝記名画から自分の「未来予想図II」	中嶋 秀満	2	2	(演)			火5	
		こどもと環境	仲井 あや	2	2	(演)			火5	
		現代社会と若者	王 文潔	2	2	(演)			木4	
		プラスチックのこれまでとこれから	内田 真	2	2	(演)			木4	
		IoT/ICT技術で一次産業に革新を	原 尚之	2	2	(演)			木4	
		放射線のリスクについて考えてみよう	秋吉 優史	2	2	(演)			木4	
		遺伝子組換え食品を巡る議論	小泉 望	2	2	(演)			木4	
		くすりについて考えよう	乾 隆	2	2	(演)			木4	
		生殖技術について考える	金子 武人	2	2	(演)			木4	
		疫学:因果推論の方法について	伊藤 一弥	2	2	(演)			木4	
		どのようにつくる?これからのエネルギー	岡本 尚樹	2	2	(演)			木5	
		不思議な粉の世界について知ろう	野村 俊之	2	2	(演)			木5	
		「語り」を通じて他の人の世界を知ろう	富川 順子	2	2	(演)			木5	
		まちづくりカードゲームによる空間の構想	阿久井 康平	2	2	(演)			金4	
		ジェンダーについて考える	乾 順子	2	2	(演)			金4	
		航空宇宙工学の歴史	森 浩一	2	2	(演)			金4	
		全固体電池の材料化学	作田 敦	2	2	(演)			金4	
		身近な植物の病気	津島 綾子	2	2	(演)			金4	
		学習理論で考える自分の学び方	勝山 愛	2	2	(演)			金4	
		映像制作で今を伝えて未来を問う	林 宣伶	2	2	(演)			金4	
		万博イベントに挑戦!企業と新製品開発	山田 裕美	2	2	(演)			金4	
		教育と学校を考える	森岡 次郎	2	2	(演)			金5	
		実験心理学で錯視を科学する	武藤 拓之	2	2	(演)			金5	
		ロボットと未来社会	高田 洋吾	2	2	(演)			金5	
		衝突安全性と自動車技術の未来を考える	榎田 努	2	2	(演)			金5	
		日本の農と食を考える	大江 真道	2	2	(演)			金5	
		身の回りの化学物質について知ろうー医・	谷森 紳治	2	2	(演)			金5	
がん医療と緩和ケア	高尾 鮎美	2	2	(演)			金5			
高齢化について考える	呉代 華容	2	2	(演)			金5			
<再履修クラス(2年次以上)>	畑野 快	2	2	(演)			木3			
<再履修クラス(2年次以上)>	深野 政之	2	2	(演)			○			

●(講)は講義、(演)は演習、(実)は実験・実習の授業形態を表します。





### 3. 情報リテラシー科目

#### 〔カリキュラム概要〕

大学や社会で必要となる情報処理の基礎的な知識と技能に加え、インターネットによるコミュニケーション手法や情報化社会に参画するための情報倫理、情報機器によるプレゼンテーション等のスキルについて、文系・理系を問わず共通に身につけることを目的に、1年次全学生の必修科目として「情報リテラシー」(2単位)を開講します。

#### 〔科目の構成〕

- 「情報リテラシー」は全学生必修で、1年次前期に開講します。自分の所属する学部・学科、学域・学類向けのクラスを履修してください。他学科等向けのクラスは履修できません。

#### 〔履修上の注意〕

- 授業は各自のPCを用いて行います。必要なソフトウェアのインストールなどについては授業中に指示します。

#### 〔2025年度開講予定科目一覧〕

科目区分	科目コード	科目名	週時間数	単位数	授業形態	配当クラス (別途掲示)	開講キャンパスおよび開講期			備考
							杉本	中百舌鳥	森之宮	
							前期	前期	後期	
情報リテラシー科目	1GCA001	情報リテラシー	2	2	(講)	(別途掲示)	○	○		
	1GCA001	情報リテラシー	2	2	(講)	(別途掲示)			○	再履修クラス

- 情報リテラシー科目の配当年次は1年次です。
- (講)は講義、(演)は演習、(実)は実験・実習の授業形態を表します。



## 4. 外国語科目（英語・初修外国語）

### 4-1. 英語

#### 〔カリキュラム概要〕

世界共通語としての英語の4技能（Reading、Listening、Writing、Speaking）について、一定の能力を身に付けることはグローバル化した世界では非常に重要です。自立的英語使用者および自律的英語学修者の育成を目的とし、卒業までに学生が一定レベル（CEFR\* B1 以上）に達することを旨として、1年次で4単位、2年次で2単位の必修科目「University English」を提供します。

1年次には、4技能に関わる基礎的な能力を、それぞれインプットからアウトプットの流れを重視する中で養成し強化します。さらには、学生の言語活動に対する自信、異文化への認識およびクリティカル・シンキングの能力の育成を目指します。

2年次には、1年次で修得した各スキルを発展させ、各学生の専門課程への橋渡しとなる英語読解能力を養い、さらに、研究レポート作成およびプレゼンテーションと質疑応答のスキルを学生が身に付けることを目指します。

2年間の必修科目を通じて、最終的には、アカデミックなコンテキストにおいて高度な英文読解ができ、自信を持ってライティングとプレゼンテーションができる学生の育成を目指します。

その他、必修科目に加えて、少人数規模での選択科目を展開します。選択科目では、学生の伸ばしたい特定のスキルの修得や関心のある分野の理解を深めるための科目を提供するとともに、短期海外語学研修や長期留学を計画する学生のニーズに対応するための科目も提供します。

\*CEFR：Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment（外国語の学習・教授・評価のためのヨーロッパ言語共通参照枠）

#### 〔科目の構成〕

- 1年次は必修科目として、「University English 1A（前期：日本人教員）」・「University English 1B（前期：外国人教員）」・「University English 2A（後期：日本人教員）」・「University English 2B（後期：外国人教員）」で構成されています。
- 2年次必修科目は、「University English 3A（前期または後期：日本人教員）」・「University English 3B（前期または後期：外国人教員）」です。
- 学部・学域等によりクラス指定されますので、学生は所定のクラスを学生ポータル（UNIPA）で履修登録してください。クラス分けについては、別途掲示します。
- 選択科目は、「Media English」・「Writing A」・「Writing B」・「TOEFL A」・「TOEFL B」・「TOEIC L & R」・「海外語学研修 A」・「海外語学研修 B」・「海外活動（留学・ビジネス）準備コース」・「Discussion」・「Reading」・「Literature」・「Comparative Culture」・「ESD\*\* A」・「ESD B」・「Presentation」・「Communicative Grammar」の各科目です。自分の興味、関心に応じて選択科目を履修してください。ただし、「Writing A」・「Presentation」は後期開講で、それぞれ「University English 1A」・「University English 1B」の修得が履修条件となります。また、「Writing B」の履修ができるのは3年次からとなります。他の選択科目についても、履修の目安を記載している場合があるので、履修登録をする前に各シラバスをよく確認してください。

\*\*ESD：Education for Sustainable Development（持続可能な開発のための教育）

〔履修上の注意〕

● English Portfolio について

English Portfolio は、英語学修の過程や英語を用いた活動を記録し蓄積していくシステムです。English Portfolio を使って日々の学修や活動を定期的に振り返り、これまで何をどのように学び、その結果自分はどんな英語能力を身につけることができているのかといった今の自分の立ち位置を確認しながら、次の学びにつなげていきましょう。

必修科目の「University English 1A、1B、2A、2B」では、English Portfolio の Unit Reflection を活用します。教科書の各ユニットの学習が終わったらアクセスしてください。CAN-DO チェックリストを見ながら学んだことをふり振り返り、自分の今のスキルレベルを確認しましょう。自分にとってどの目標が重要で、これから何を学ぶ必要があるのかを把握するのに役立ててください。

● 外国語科目（英語）の単位認定について

TOEIC スコア等が一定レベル以上の場合、英語科目の単位認定を行う制度があります。詳細は、本冊子の P 10 を参照してください。なお、認定された科目は履修することができないので注意してください。

〔2025年度開講予定科目一覧〕

科目区分	科目コード	科目名	週時間数	単位数	授業形態	配当クラス	開講キャンパスおよび開講期					備考
							杉本		中百舌鳥		森之宮	
							前期	後期	前期	後期	後期	
外国語科目 英語科目	IGDA001	University English 1A	2	1	(実)	（別途揭示）	○		○			
	IGDA002	University English 1B	2	1	(実)		○		○			
	IGDA003	University English 2A	2	1	(実)						○	
	IGDA004	University English 2B	2	1	(実)						○	
	IGDA005	University English 3A	2	1	(実)		○	○	○	○	○	2年次配当科目 ／その他キャンパスでも開講有
	IGDA006	University English 3B	2	1	(実)		○	○	○	○	○	
	IGDA001	University English 1A	2	1	(実)	全					○	再履修クラス
	IGDA002	University English 1B	2	1	(実)	全					○	
	IGDA003	University English 2A	2	1	(実)	全	○		○			2年次配当科目／再履修クラス
	IGDA004	University English 2B	2	1	(実)	全	○		○			
	IGDA005	University English 3A	2	1	(実)	全	○		○	○		2年次配当科目／再履修クラス
	IGDA006	University English 3B	2	1	(実)	全	○		○	○		
	IGDA007	Media English	2	1	(実)	全				○		
	IGDA008	Writing A	2	1	(実)	全					○	履修には、University English 1A の単位修得が必要
	IGDA009	Writing B	2	1	(実)	全					○	3年次配当科目／履修には、 University English全6単位の修得 が必要
	IGDA010	TOEFL A	2	1	(実)	全	○		○			
	IGDA011	TOEFL B	2	1	(実)	全					○	
	IGDA012	TOEIC L&R	2	1	(実)	全	○		○			
	IGDA013	英語海外語学研修A	2	1	(実)	全	○		○		○	CAP対象外／通年集中講義／※
	IGDA014	英語海外語学研修B	2	1	(実)	全	○		○		○	CAP対象外／通年集中講義／※
	IGDA015	海外活動(留学・ビジネス)準備コース	2	1	(実)	全	○		○			
	IGDA016	Discussion	2	1	(実)	全	○		○		○	同一年度内の再履修不可
	IGDA017	Reading	2	1	(実)	全	○		○		○	同一年度内の再履修不可
IGDA018	Literature	2	1	(実)	全	○				○		
IGDA019	Comparative Culture	2	1	(実)	全	○				○		
IGDA020	ESD A	2	1	(実)	全	○		○				
IGDA021	ESD B	2	1	(実)	全					○		
IGDA022	Presentation	2	1	(実)	全					○	履修には、University English 1B の単位修得が必要	
IGDA023	Communicative Grammar	2	1	(実)	全				○	○		

- University English 1A,1B,2A,2B,3A,3Bは必修科目です。
- 備考欄に配当年次が記載されていない科目は、1年次配当です。
- 再履修クラスは、履修済みの学生だけが履修登録可能です。
- (講)は講義、(演)は演習、(実)は実験・実習の授業形態を表します。
- ※UNIPA履修登録対象外科目

## 〔TOEIC テストの受験について〕

大阪公立大学生協同組合が実施する「TOEIC® Listening & Reading IP テスト」(オンライン)を受験してください。

受験方法等の詳細は、生協からの案内等を参照し、各自で申し込みをしてください。受験時期については、1年次の前期(4月)、後期(1月)および2年次後期(1月)の計3回を推奨します。

なお、1年次後期(1月)のスコアは、「University English 2A」の評価に含みます。(成績採用率については、シラバスを参照してください)。

## 4-2. 初修外国語

### 〔カリキュラム概要〕

初修外国語とは大学に入学して初めてゼロから学ぶ外国語という意味です。大阪公立大学では朝鮮語・中国語・ロシア語・ドイツ語・フランス語の5言語を初修外国語科目として提供しています。

多様な言語、多様な文化を持つ人々が共に働き共に生きる21世紀の社会を構成する市民として、英語以外の新しい言語の学習は不可欠です。21世紀の社会を構成する市民として、複言語・複文化の理念のもと、新しい言語の学習を通じて異なる言語や文化にもとづく社会の間はもとより、同じ言語や文化の人々の間も橋渡しする能力の基礎を身につけます。また、成人として自ら選んだ新しい言語の学習を通じて自律学習を行う方法を学びます。

それぞれの言語の紹介については、新入生用 Web サイトで配布されている PDF 版の『初修外国語履修ガイド』をご覧ください。新入生オリエンテーションの動画においても、それぞれの言語の紹介をしています。

### 〔科目の構成〕

初修外国語は**必修科目**です。卒業に必要な単位数は学部・学域によって異なりますので、それぞれの学部・学域の『要覧』をご覧ください。

新しい言語を学び始める時に1クラスの数が多すぎるのはよくありませんので、初修外国語には抽選があります。第1希望と第2希望の言語を選んでください。

#### <1年次の3コース>

- 1年次の初修外国語には週1回コース、週2回コース、週3回コースがあります。  
所属する学部・学域によって選択できるコースが決まっています。
- 週1回コースは新しい言語に親しむコースです。前期の単位が取れなくてもそのまま後期を履修できます。

前期	後期
〇〇語入門 1	〇〇語入門 2

- 週2回コースは文法と会話の2つの観点から学びます。それぞれの授業は独立して成績がつけられます。また、前期の単位が取れなくてもそのまま後期を履修できます。

前期	後期
〇〇語入門 A (基礎)	〇〇語初級 A (基礎)
〇〇語入門 B (会話)	〇〇語初級 B (会話)

※A (基礎) は文法中心です。

- 週3回コースは緊密に連携した週2回セットの基礎と週1回の応用です。前期の単位が修得できないと、後期は履修できません。

前期	後期
〇〇語基礎 1	〇〇語基礎 2
〇〇語基礎 1	〇〇語基礎 2
〇〇語応用 1	〇〇語応用 2

[学部・学域ごとの配当コース]

学部・学域	コース
農学部（生命機能化学科・緑地環境科学科）・ 獣医学部・医学部・看護学部・生活科学部	週 1 回コース
現代システム科学域・ 理学部・工学部・農学部（応用生物科学科）	週 1 回コースまたは週 2 回コース のいずれかを選択
経済学部	週 2 回コース
商学部	1 年次は週 2 回コース +2 年次に中級を週 1 回※
文学部・法学部	週 3 回コース

※商学部 2 年次科目は「中級 1」・「中級 2」で、いずれも必修科目です。

<更に学びたい人のために>

1 年次で学んだ初修外国語を更に学びたい人のために、2 年次では選択科目として特修が設けられています。特修を履修するには 1 年次前期に 1 単位以上修得、かつ 1 年次後期に 1 単位以上の単位を修得していることが必要です。特修の前期科目と後期科目は独立しています。前期だけ後期だけの履修が可能です。また 1 学期に複数の特修を履修することもできます。

選択科目として海外語学研修があります。夏季休業などの長期休暇を利用してその言語が話されている地域に行き学びます。

[履修上の注意]

- 初修外国語科目はゼロから始める外国語科目という意味ですから、自分の第一言語（母語）を初修外国語科目として履修することはできません。
- 日本語を第一言語（母語）としない学生は、特例科目（外国人留学生および日本語を母語としない学生を対象にした日本語科目）を履修し単位を修得した場合、初修外国語の単位として認定することができます。
- 朝鮮語・中国語・ロシア語・ドイツ語・フランス語は第一言語（母語）ではないが、朝鮮語・中国語・ロシア語・ドイツ語・フランス語を学んだことのある人で、指定するレベル以上の場合は、申請して面接試験等に合格すれば、1 年次科目（入門・初級・基礎・応用）の履修を免除し、1 年次より 2 年次科目（中級レベル）を履修できます。

ただし、1 年次科目の履修を免除するだけであって、単位が与えられるわけではありません。詳細は「入学手続きのしおり」同封の「朝鮮語（韓国語）・中国語・ロシア語・ドイツ語・フランス語を学んだことのある人へ」を参照してください。なお、入門初級履修免除に合格した言語の 1 年次科目（入門・初級・基礎・応用）は履修することができないので注意してください。



〔2025年度開講予定科目一覧〕

科目区分	科目コード	科目名	週時間数	単位数	授業形態	配当クラス	開講キャンパスおよび開講期			備考	
							杉本	中百舌島	森之宮		
							前期	前期	後期		
ドイツ語	1GDB001	ドイツ語入門1	2	1	(実)	〈別途揭示〉	○	○		週1回コース	
	1GDB002	ドイツ語入門2	2	1	(実)				○		
	1GDB003	ドイツ語入門A(基礎)	2	1	(実)		○	○			週2回コース
	1GDB004	ドイツ語入門B(会話)	2	1	(実)		○	○			
	1GDB005	ドイツ語初級A(基礎)	2	1	(実)				○		
	1GDB006	ドイツ語初級B(会話)	2	1	(実)				○	商学部専用2年次配当科目	
	1GDB007	ドイツ語中級1	2	1	(実)		○				
	1GDB008	ドイツ語中級2	2	1	(実)				○		
	1GDB009	ドイツ語基礎1	4	2	(実)		○			週3回コース 基礎2の履修には基礎1の単位修得が必要	
	1GDB010	ドイツ語基礎2	4	2	(実)				○		
	1GDB011	ドイツ語応用1	2	1	(実)		○				応用2の履修には応用1の単位修得が必要
	1GDB012	ドイツ語応用2	2	1	(実)				○		
	1GDB013	ドイツ語特修A	2	1	(実)		全	○	○	2年次配当科目/ 履修には、1年次前期のドイツ語で1単位以上、かつ1年次後期のドイツ語で1単位以上、計2単位以上の単位修得が必要	
	1GDB014	ドイツ語特修B	2	1	(実)		全		○		
	1GDB015	ドイツ語特修C	2	1	(実)		全	○	○		
	1GDB016	ドイツ語特修D	2	1	(実)		全		○		
	1GDB017	ドイツ語特修E	2	1	(実)		全	○	○		
	1GDB018	ドイツ語特修F	2	1	(実)		全		○		
	1GDB019	ドイツ語特修G	2	1	(実)		全	○	○		
	1GDB020	ドイツ語特修H	2	1	(実)		全		○		
	1GDB021	ドイツ語海外語学研修	2	1	(実)		全	○	○	○	CAP対象外/2年次配当科目/ 通年集中講義/※
1GDB001	ドイツ語入門1	2	1	(実)	全			○	再履修クラス		
1GDB002	ドイツ語入門2	2	1	(実)	全	○	○		2年次配当科目/再履修クラス		
フランス語	1GDC001	フランス語入門1	2	1	(実)	〈別途揭示〉	○	○		週1回コース	
	1GDC002	フランス語入門2	2	1	(実)				○		
	1GDC003	フランス語入門A(基礎)	2	1	(実)		○	○			週2回コース
	1GDC004	フランス語入門B(会話)	2	1	(実)		○	○			
	1GDC005	フランス語初級A(基礎)	2	1	(実)				○		
	1GDC006	フランス語初級B(会話)	2	1	(実)				○	商学部専用2年次配当科目	
	1GDC007	フランス語中級1	2	1	(実)		○				
	1GDC008	フランス語中級2	2	1	(実)				○		
	1GDC009	フランス語基礎1	2	2	(実)		○			週3回コース 基礎2の履修には基礎1の単位修得が必要	
	1GDC010	フランス語基礎2	2	2	(実)				○		
	1GDC011	フランス語応用1	2	1	(実)		○				応用2の履修には応用1の単位修得が必要
	1GDC012	フランス語応用2	2	1	(実)				○		
	1GDC013	フランス語特修A	2	1	(実)		全	○	○	2年次配当科目/ 履修には、1年次前期のフランス語で1単位以上、かつ1年次後期のフランス語で1単位以上、計2単位以上の単位修得が必要 フランス語特修Gは2025年度不開講	
	1GDC014	フランス語特修B	2	1	(実)		全		○		
	1GDC015	フランス語特修C	2	1	(実)		全	○	○		
	1GDC016	フランス語特修D	2	1	(実)		全		○		
	1GDC017	フランス語特修E	2	1	(実)		全	○			
	1GDC018	フランス語特修F	2	1	(実)		全		○		
	1GDC019	フランス語特修G	2	1	(実)		全	○			
	1GDC020	フランス語特修H	2	1	(実)		全		○		
	1GDC021	フランス語海外語学研修A	2	1	(実)		全	○	○	○	CAP対象外/通年集中講義/※
	1GDC022	フランス語海外語学研修B	2	1	(実)		全	○	○	○	CAP対象外/2年次配当科目/ 通年集中講義/※
1GDC001	フランス語入門1	2	1	(実)	全			○	再履修クラス		
1GDC002	フランス語入門2	2	1	(実)	全	○	○		2年次配当科目/再履修クラス		

- 選択できるコースは、本冊子P38～P39の「カリキュラム概要」の「学部・学域ごとの配当コース」の表を参照してください。
- 備考欄に配当年次が記載されていない科目は1年次配当です。
- (講)は講義、(演)は演習、(実)は実験・実習の授業形態を表します。
- ※ UNIPA履修登録対象外科目

科目区分	科目コード	科目名	週時間数	単位数	授業形態	配当クラス	開講キャンパスおよび開講期			備考																											
							杉本 前期	中百舌鳥 前期	森之宮 後期																												
外国語科目	中国語	1GDD001	中国語入門1	2	1	(実)	〇	〇	〇	週1回コース																											
		1GDD002	中国語入門2	2	1	(実)					〇	〇	〇																								
		1GDD003	中国語入門A(基礎)	2	1	(実)				〇				〇	〇	週2回コース																					
		1GDD004	中国語入門B(会話)	2	1	(実)											〇	〇	〇																		
		1GDD005	中国語初級A(基礎)	2	1	(実)														〇	〇	〇															
		1GDD006	中国語初級B(会話)	2	1	(実)																	〇	〇	〇												
		1GDD007	中国語中級1	2	1	(実)										〇										〇	〇	商学部専用2年次配当科目									
		1GDD008	中国語中級2	2	1	(実)																							〇	〇	〇						
		1GDD009	中国語基礎1	2	2	(実)																						〇				〇	〇	週3回コース 基礎2の履修には基礎1の単位修得が必要 応用2の履修には応用1の単位修得が必要			
		1GDD010	中国語基礎2	2	2	(実)																													〇	〇	〇
		1GDD011	中国語応用1	2	1	(実)																															
	1GDD012	中国語応用2	2	1	(実)	〇	〇	〇																													
	1GDD013	中国語特修A	2	1	(実)				全		〇	〇	2年次配当科目/ 履修には、1年次前期の中国語で1単位以上、かつ1年次後期の中国語で1単位以上、計2単位以上の単位修得が必要																								
	1GDD014	中国語特修B	2	1	(実)					全				〇	〇																						
	1GDD015	中国語特修C	2	1	(実)												全	〇	〇																		
	1GDD016	中国語特修D	2	1	(実)															全	〇	〇															
	1GDD017	中国語特修E	2	1	(実)																		全	〇	〇												
	1GDD018	中国語特修F	2	1	(実)											全										〇	〇										
	1GDD019	中国語特修G	2	1	(実)																								全	〇	〇						
	1GDD020	中国語特修H	2	1	(実)																							全				〇	〇				
	1GDD021	中国語海外語学研修A	2	1	(実)																													全	〇	〇	CAP対象外/通年集中講義/※
1GDD022	中国語海外語学研修B	2	1	(実)	全																																
1GDD001	中国語入門1	2	1	(実)		全	〇	〇																													再履修クラス
1GDD002	中国語入門2	2	1	(実)					全		〇	〇	2年次配当科目/再履修クラス																								
ロシア語	1GDE001	ロシア語入門1	2	1						(実)			〇	〇	〇																						週1回コース
	1GDE002	ロシア語入門2	2	1						(実)							〇	〇	〇																		
	1GDE003	ロシア語入門A(基礎)	2	1						(実)										〇	〇	〇															週2回コース
	1GDE004	ロシア語入門B(会話)	2	1						(実)													〇	〇	〇												
	1GDE005	ロシア語初級A(基礎)	2	1						(実)						〇										〇	〇										
	1GDE006	ロシア語初級B(会話)	2	1						(実)																			〇	〇	〇						
	1GDE007	ロシア語中級1	2	1						(実)																		〇				〇	〇				商学部専用2年次配当科目
	1GDE008	ロシア語中級2	2	1						(実)																								〇	〇	〇	
	1GDE009	ロシア語基礎1	2	2	(実)					〇																											〇
	1GDE010	ロシア語基礎2	2	2	(実)	〇	〇	〇																													
	1GDE011	ロシア語応用1	2	1	(実)				〇		〇	〇																									
1GDE012	ロシア語応用2	2	1	(実)	〇								〇	〇																							
1GDE013	ロシア語特修A	2	1	(実)											全		〇	〇	2年次配当科目/ 履修には、1年次前期のロシア語で1単位以上、かつ1年次後期のロシア語で1単位以上、計2単位以上の単位修得が必要																		
1GDE014	ロシア語特修B	2	1	(実)																全	〇	〇															
1GDE015	ロシア語特修C	2	1	(実)																			全	〇	〇												
1GDE016	ロシア語特修D	2	1	(実)												全										〇	〇										
1GDE017	ロシア語海外語学研修	2	1	(実)															全										〇	〇	CAP対象外/2年次配当科目/ 通年集中講義/※						
1GDE001	ロシア語入門1	2	1	(実)																								全			〇	〇	再履修クラス				
1GDE002	ロシア語入門2	2	1	(実)																													全	〇	〇	2年次配当科目/再履修クラス	

● 選択できるコースは、本冊子P38～P39の[カリキュラム概要]の「学部・学域ごとの配当コース」の表を参照してください。  
 ● 備考欄に配当年次が記載されていない科目は1年次配当です。  
 ● (講)は講義、(演)は演習、(実)は実験・実習の授業形態を表します。  
 ※UNIPA履修登録対象外科目

科目区分	科目コード	科目名	週時間数	単位数	授業形態	配当クラス	開講キャンパスおよび開講期			備考		
							杉本	中百舌島	森之宮			
							前期	前期	後期			
外国語科目	朝鮮語	1GDF001	朝鮮語入門1	2	1	(実)	〈別途揭示〉	○	○		週1回コース	
		1GDF002	朝鮮語入門2	2	1	(実)				○		
		1GDF003	朝鮮語入門A(基礎)	2	1	(実)		○	○		週2回コース	
		1GDF004	朝鮮語入門B(会話)	2	1	(実)		○	○			
		1GDF005	朝鮮語初級A(基礎)	2	1	(実)				○		
		1GDF006	朝鮮語初級B(会話)	2	1	(実)				○		
		1GDF007	朝鮮語中級1	2	1	(実)		○			商学部専用2年次配当科目	
		1GDF008	朝鮮語中級2	2	1	(実)				○		
		1GDF009	朝鮮語基礎1	2	2	(実)		○			週3回コース 基礎2の履修には基礎1の単位修得が必要 応用2の履修には応用1の単位修得が必要	
		1GDF010	朝鮮語基礎2	2	2	(実)				○		
		1GDF011	朝鮮語応用1	2	1	(実)		○				
		1GDF012	朝鮮語応用2	2	1	(実)				○		
		1GDF013	朝鮮語特修A	2	1	(実)		全	○	○		2年次配当科目/ 履修には、1年次前期の朝鮮語で1単位以上、かつ1年次後期の朝鮮語で1単位以上、計2単位以上の単位修得が必要
		1GDF014	朝鮮語特修B	2	1	(実)		全			○	
		1GDF015	朝鮮語特修C	2	1	(実)		全	○	○		
		1GDF016	朝鮮語特修D	2	1	(実)		全			○	
		1GDF017	韓国語海外語学研修A	2	1	(実)		全	○	○	○	CAP対象外/通年集中講義/※
		1GDF018	韓国語海外語学研修B	2	1	(実)		全	○	○	○	CAP対象外/2年次配当科目/ 通年集中講義/※
1GDF001	朝鮮語入門1	2	1	(実)	全			○	再履修クラス			
1GDF002	朝鮮語入門2	2	1	(実)	全	○	○		2年次配当科目/再履修クラス			

●選択できるコースは、本冊子P38～P39の「カリキュラム概要」の「学部・学域ごとの配当コース」の表を参照してください。

●備考欄に配当年次が記載されていない科目は1年次配当です。

●(講)は講義、(演)は演習、(実)は実験・実習の授業形態を表します。

※UNIPA履修登録対象外科目

## 5. 特例科目

### 〔カリキュラム概要〕

本科目は、留学生および日本語を母語としない学生が日本語母語話者と同程度の言語運用技術（能力）を獲得することを目的としています。

留学生にとって日本語の習得は容易なことではありません。もちろん「日本語の習得」といっても、その内容も基準も、状況に応じて様々です。日常生活に必要な会話から、手紙や役所の届け出の書類を書くこと、テレビなどのメディアの中で使われる日本語の新しい言葉を通しての趣味・娯楽など、個々人の必要度に応じて、どこが「習得」の基準になるかが決まります。しかしここでは、研究活動や大学生活において必要な日本語の習得をめざしています。

大学生活をより豊かなものにするため、学習活動や研究活動のために必要となる日本語能力を身に付けること。つまり、学習活動に必要な日本語能力とは、講義を聞き、理解する、ノートを取る、自分の疑問点を日本語で表現する能力です。また、研究活動に必要な能力とは、専門書を読んで要約し、自分の問題意識を絞ってゼミで発表する、質疑応答してディスカッションする技術、さらにはレポートをまとめたり、論文を書く能力です。

「日本語 1～3」の各科目ではそのような日本語能力の養成を、幅広い観点・多彩な角度から行います。

### 〔科目の構成〕

- 履修年次は特に指定しません。また、科目の番号順に履修する必要はありません。
- 時間割の上で同一の時間帯に他の科目と重複して履修申請することはできません。
- 初回の授業には必ず出席してください。
- 修得した単位を、初修外国語科目の単位としての認定を希望しない場合は、教育推進課に申し出てください。その場合、自由科目となり、卒業要件には算入されません。
- 科目名の 1、2、3 は、おおよそ、「学ぶ日本語のレベル」を表しています。  
1 より 2、2 より 3 の方が上のレベルです。
- 科目名の A、B は「学ぶ活動の種類」を表しています。A は主に表現（作文）・読解を学びます。B は主に会話・聴解を学びます。
- 厳密な履修資格やクラス分けテストなどは設けていません。履修者の学習事情や時間割の都合で、各科目を選択してください。

### 〔履修上の注意〕

- 日本語を母語とする学生は履修できません。
- 同じ学期に、「学ぶ活動の種類」が同じ科目を 2 つ履修することはできません。  
例えば「日本語 1A」・「日本語 2A」と同じ学期に履修することはできません。
- 2025 年度後期から、杉本キャンパス、中百舌鳥キャンパスでは対面の科目は開講されません。森之宮キャンパス以外のキャンパス（杉本キャンパス、中百舌鳥キャンパスなど）で学ぶ学生は、遠隔（同期型）の授業を受けることができます。

【2025年度開講予定科目一覧】

科目区分	科目コード	科目名	週時間数	単位数	授業形態	配当クラス	開講キャンパスおよび開講期					備考	
							杉本		中百舌鳥		森之宮		
							前期	後期	前期	後期	後期		
特例科目	1GEA001	日本語1A	2	1	(実)	全	○		○		○	自由科目/ CAP対象外 同一年度内の 再履修不可	
	1GEA002	日本語1B	2	1	(実)				○		○		
	1GEA003	日本語2A	2	1	(実)		○		○		○		
	1GEA004	日本語2B	2	1	(実)				○		○		
	1GEA005	日本語3A	2	1	(実)		○	※		※	○		※森之宮キャンパス以外 のキャンパスで学ぶ 学生は、「日本語3A」 「日本語3B」を遠隔(同 期型)授業で履修可能
	1GEA006	日本語3B	2	1	(実)			※		※	○		

●(講)は講義、(演)は演習、(実)は実験・実習の授業形態を表します。

## 6. 健康・スポーツ科学科目

### 〔カリキュラム概要〕

人生 100 年時代と言われるように高齢化が急速に進む我が国において、well-being（身体だけではなく、精神面、社会面も含めた、新しい本当の意味での健康的な状態）として、健康の在り方を理解し、実践することが重要であるとの認識のもと、必修科目として、「健康・スポーツ科学概論」（2 単位）および「健康・スポーツ科学実習」（1 単位）を開講します。本科目では、生涯にわたり心身の健康を維持し、より健康的な状態を得るために必要な知識や方法について、主としてスポーツを中心とした行動を通じて具体的、学術的に修得するとともに、健康科学やスポーツ文化が果たすべき役割について、理論と実践を通し理解を深めることを目的とします。

### 〔科目の構成〕

- 必修科目として、「健康・スポーツ科学概論」および「健康・スポーツ科学実習」で構成されています。
- 自分の所属する学部・学科、学域・学類向けのクラスを履修してください。他学部等向けのクラスは履修できません。
- 「健康・スポーツ科学概論」では、各教員の専門性を含んだ授業（講義）が展開されます。
- 「健康・スポーツ科学実習」では、各種のスポーツに分かれて授業（実技）が実施されます。

### 〔履修上の注意〕

- 健康・スポーツ科学実習（以下「実習」という）の授業内容、評価方法、履修上の注意に関する説明等を、第 1 週時のガイダンスにて行いますので、必ず出席してください。
- 実習では、各種目に定員があるため、各人の希望する種目を履修できない場合があります。
- 実習の履修にあたっては、健康診断を受診するなど健康状態の把握と健康管理に努めてください。また、各自で保険（学生教育研究災害障害保険〔学研災〕および同付帯保険や学生総合共済など）に加入しておいてください。
- 疾病・障がいおよび社会的障壁を有する学生で個別具体的な修学上の配慮・支援を必要とする場合には、P15 の「修学上の配慮・支援」を参照ください。

### 〔2025年度開講予定科目一覧〕

科目区分	科目コード	科目名	週時間数	単位数	授業形態	配当クラス ( <small>別途揭示</small> )	開講キャンパスおよび開講期			備考
							杉本	中百舌鳥	森之宮	
							前期	前期	後期	
健康・スポーツ科学科目	1GFA001	健康・スポーツ科学概論	2	2	(講)	〇	〇	〇	〇	同一年度内の再履修不可
	1GFB001	健康・スポーツ科学実習	2	1	(実)		〇	〇	〇	同一年度内の再履修不可

- 健康・スポーツ科学科目の配当年次は1年次です。
- (講)は講義、(演)は演習、(実)は実験・実習の授業形態を表します。



## 7. 基礎教育科目

### 〔カリキュラム概要（全体）〕

それぞれの学問領域の基礎教育の中で、基幹教育として提供することがふさわしい自然科学系科目（情報系を含む）を基礎教育科目として提供します。学士課程教育において、科学の基本的能力として必要とされる学力と能力を養成するために、1～2年次に「数学」・「物理学」・「化学」・「生物学」・「地学」・「情報学」の基礎教育（講義・演習・実験）を開講します。それぞれの科目では、学士課程において必要な科学的基盤を身に付けるのみでなく、専門教育へもスムーズに接続できる知識・技能の修得を目指し、学部・学科、学域・学類の特性に応じて、必修科目または選択科目として配置します。

### 〔科目の構成（全体）〕

- 自分の所属する学部・学科、学域・学類向けのクラスを履修してください。他学科等向けの同名クラスは履修できません。また、再履修の際は、所属学部・学域に担当されたクラスを履修してください。  
なお、履修希望者が多数となった場合は、履修者制限を行う場合があります。また、各クラスの教科書、試験・成績評価、関連科目等を含む詳細な情報は、シラバスを参照してください。

### 〔履修上の注意（全体）〕

- 実験を履修する場合は、各自で保険（学生教育研究災害傷害保険〔学研災〕および同付帯保険や学生総合共済など）に加入しておいてください。

## 7-1. 数学

### 〔カリキュラム概要〕

数学は科学的論理的にものごとを捉えようとする全ての分野において基礎となる学問であり、文系理系を問わず学生にとってきわめて重要な科目です。基礎教育科目の数学では、各学生の専門課程での学びの基礎となる線形代数、微積分、微分方程式に関する科目だけでなく、数学的な考え方や活用方法を身に付けるための科目や、統計的な考え方や基本的な統計手法を身に付けるための科目を、学部・学科、学域・学類の特性に応じて、必修科目または選択科目として配置します。

### 〔科目の構成〕

主に1年次配当科目として、「微積分 1A、1B、2」・「線形代数 1、2A、2B」・「数学 1、2」・「基礎数学 A、B」・「数学リテラシー1、2」・「統計学基礎 1、2」、2年次またはそれ以降の配当科目として、「常微分方程式」・「複素解析」・「応用数学」・「ベクトル解析」・「数値解析」・「確率統計」で構成されています。学部・学科、学域・学類によって、配当の有無や配当年次、必修・選択は異なるので、学部・学科、学域・学類ごとの科目構成の詳細は『要覧』で確認してください。

## 7-2. 物理学

### 〔カリキュラム概要〕

物理学は、経験や実験事実を基に、自然界の法則を追求する学問です。したがって、物理学関連分野だけでなく、化学や生物学などを含むあらゆる自然科学の基礎をなすものです。今日の私たちの生活を豊かにしているさまざまな科学技術の発達も、物理学の発展無



しには不可能であったと言っても過言ではありません。皆さんが理系のどのような分野に進まれるにしても、その専門分野を理解するためには、物理学の基礎を理解しておくことが不可欠です。

そこで、基礎教育科目として提供される物理学関連科目は、目的に応じて3つに大別される科目から構成されています。

### 〔科目の構成〕

大別	概要	科目名
専門基礎的科目	専門科目を学ぶ上で必要となる、物理学各分野（力学、電磁気学など）の基礎を学ぶ科目です。	（講義科目） 基礎力学 A1、A2、 B1、B2、B3、C 基礎電磁気学 A1、A2、C 基礎熱力学 近代物理学 基礎量子力学 A、B 基礎統計力学 基礎解析力学  （実験科目） 基礎物理学実験 1A、1B、 2A*、2B* 応用物理学実験**  （演習科目） 基礎物理学演習
医療系向け科目	医療系で必要とされている分野に重きを置いて、物理学の基礎知識を学ぶ科目です。	物理学基礎
入門的科目	これまで物理学になじみが薄かった人を対象に、物理学について幅広く学ぶ入門的な科目です。	入門物理学 1、2 入門物理学実験

\* 「基礎物理学実験 2A、2B」は「基礎物理学実験 1A、1B」または「入門物理学実験」の内容に関する知識を前提とします。

\*\* 「応用物理学実験」の履修にあたっては、「基礎物理学実験 1B」の単位を修得していることを要します。

## 7-3. 化学

### 〔カリキュラム概要〕

化学は、さまざまな物質の構造と性質について実験と理論の両面から解明し、新しい化学反応の実現と優れた機能を持つ物質の設計・創造に取り組むことで、あらゆる先端科学の基盤となる学問です。また、環境やエネルギーといった現在人類が直面するさまざまな課題を解決するうえで、物質を扱う化学の知識と技術が果たす役割は大きいといえるでしょう。基幹教育で化学的な知識・技術の基礎を学んでください。

### 〔科目の構成〕

国際基幹教育機構が提供する「化学」の基礎教育科目は、講義科目として「基礎無機・分析化学 A および B」・「基礎物理化学 A および B」・「基礎有機化学 A および B」・「基礎無機・物理化学」・「基礎有機化学」があります。また実験科目として「基礎化学実験」があります。学部・学科、学域・学類によって選択できる科目が異なるので履修登録の際は注意してください。

## 7-4. 生物学

### 〔カリキュラム概要〕

生物学に関連する科学や技術は、近年、目まぐるしく進展しています。バイオテクノロジーやゲノム編集、再生医療、生物多様性、地球温暖化などに関する話題を見たり聞いたりしない日はないといってもいいでしょう。生物学は、生物の一員である私たちの生活や、あらゆる生物をはぐくむ地球の環境問題とも密接な関わりをもつ科学分野です。「生物学」の基礎教育科目では、講義と実験を通して、生命の成り立ちから多様な生命現象までを幅広く学ぶことで、単なる知識の暗記に終わることなく、「生命」の多面的な理解に繋がる思考力や洞察力を身に付けることを目指します。

### 〔科目の構成〕

「生物学」の基礎教育科目には、講義科目である「生物学 1」・「生物学 2」・「生物学 A」・「生物学 B」・「生物学 C」と、実験科目である「生物学実験 A」・「生物学実験 B」があります。「生物学 1」では生物の変遷や生物と環境との関わり合い、「生物学 2」では生命現象に関わる物質や生物の構造を主に学びます。また、「生物学 A」では生物の構造と機能、「生物学 B」では分子生物学とそれに関連する生命科学、「生物学 C」では動物学の諸分野の基礎を主に学びます。「生物学実験 A」と「生物学実験 B」では、生物学の研究に特有の実験方法や観察技術を習得します。

### 〔履修上の注意〕

「生物学 1」と「生物学 2」は、2つの科目を通して、生物学の基礎を幅広く学ぶための科目であるため、両方を履修することが望まれます。また、「生物学 A」と「生物学 B」の履修の前に、「生物学 1」と「生物学 2」を修得していることが望まれます。「生物学実験 A」と「生物学実験 B」は、いずれも、幅広く生物学における基礎的な実験手技を身に付けるためのものであり、共通の項目を含みます。

## 7-5. 地学

### 〔カリキュラム概要〕

地球学（地学）は、過去から現在に至る地球の実態を学際的に認識し、その未来を予測するための知識と技術を構築するための学問です。その取り扱う範囲は、火山活動や地震活動、岩石と鉱物、自然環境、地形、地球と生命の歴史、さまざまな資源やエネルギー、自然災害、地球環境問題など、多岐にわたっています。地球の真の姿を把握するためには、地球を構成する物質が物理・化学作用によって生起する現象の中から法則性を見出すとともに、さまざまな作用が相互に影響し、変遷を重ねてきた複雑なシステムとしての地球の歴史を解明する必要があります。

私たちの住処である地球の歴史を知ることは、私たちの現在の生活、さらには未来の生活を構築し、守る上で重要な指針となります。地球学に関わる講義、実験では、固体地球に関する内容を中心に取り扱い、天文・気象分野の内容も一部含みます。地球学の基礎を習得できるようなカリキュラムを構成しています。

### 〔科目の構成〕

講義科目には、「地球学入門」・「地球学基礎 A」・「地球学基礎 B」があり、いずれも選択科目として提供されます。履修順序に指定はありません。実験科目には、「地球学実験 A」・「地球学実験 B」・「地球学実験 C」があります。

## 〔履修上の注意〕

高等学校での地学履修の有無は問いません。

また実験を履修するにあたっては高等学校の地学の履修の有無を問いませんが、「地球学基礎 A」・「地球学基礎 B」もしくは「地球学入門」を履修しているとより理解が深まります。

## 7-6. 情報学

### 〔カリキュラム概要〕

あらゆるところでコンピュータが利用される現代社会では、「情報」に関する知識や技術は広く必要とされています。本学では情報に関する基礎教育科目として、(1) コンピュータやネットワークの動作原理を修得する「情報システム概論」、(2) 大量のデータを効率的に蓄積・検索するためのデータベースや情報検索のしくみ等の修得を目的とする「データベースと情報検索」、(3) プログラミング能力を修得する「プログラミング入門 A・B」を開講し、大学での研究はもとより、社会に出てからも広く求められる知識・技術を修得します。

(なお、「プログラミング入門 A」は、各学部・学科、学域・学類で適したプログラミング言語を用いて学修する科目となっています)

### 〔科目の構成〕

これらの授業はすべて「情報リテラシー」の単位を修得していることを前提としています。

#### 〈プログラミング入門について〉

「プログラミング入門 A」は自分の所属する学部・学科、学域・学類に向けたクラスを履修すること。他学科等向けの同名クラスは履修できません。「プログラミング入門 B」は、自分の所属する学部・学科、学域・学類に向けたクラスが開講されている場合はそのクラスを履修してください。開講されていない場合はどの「プログラミング入門 B」を履修しても構いません。

### 〔履修上の注意〕

授業は各自の PC を用いて行います。必要なソフトウェアのインストールなどについては授業中に指示します。

〔2025年度開講予定科目一覧〕

科目区分	科目コード	科目名	週時間数	単位数	授業形態	配当クラス	開講キャンパスおよび開講期					備考
							杉本		中百舌鳥		森之宮	
							前期	後期	前期	後期	後期	
数学	1GGA001	基礎数学A	2	2	(講)	〈別途揭示〉	○					
	1GGA002	基礎数学B	2	2	(講)						○	
	1GGA003	数学リテラシー1	2	2	(講)					○		
	1GGA004	数学リテラシー2	2	2	(講)						○	
	1GGA005	数学1	2	2	(講)					○		
	1GGA006	数学2	2	2	(講)						○	
	1GGA007	微積分1A	2	2	(講)		○		○			
	1GGA008	微積分1B	4	4	(講)				○			
	1GGA009	微積分2	2	2	(講)						○	
	1GGA010	線形代数1	2	2	(講)		○		○			
	1GGA011	線形代数2A	2	2	(講)						○	
	1GGA012	線形代数2B	4	4	(講)						○	
	1GGA013	常微分方程式	2	2	(講)		○		○			
	1GGA014	複素解析	2	2	(講)					○	○	
	1GGA015	ベクトル解析	2	2	(講)					○		
	1GGA016	応用数学	2	2	(講)					○	○	
	1GGA017	数値解析	2	2	(講)						○	
	1GGA018	統計学基礎1	2	2	(講)		○		○			
	1GGA019	統計学基礎2	2	2	(講)					○	○	
	1GGA020	確率統計	2	2	(講)					○	○	
基礎教育科目 物理学	1GGB001	基礎力学A1	4	4	(講)	〈別途揭示〉	○					
	1GGB002	基礎力学A2	2	2	(講)						○	
	1GGB003	基礎力学B1	2	2	(講)					○	○	
	1GGB004	基礎力学B2	2	2	(講)					○	○	
	1GGB005	基礎力学B3	2	2	(講)					○		
	1GGB006	基礎力学C	2	2	(講)		○		○			
	1GGB007	基礎電磁気学A1	4	4	(講)						○	
	1GGB008	基礎電磁気学A2	2	2	(講)		○					
	1GGB009	基礎電磁気学C	2	2	(講)		○		○		○	
	1GGB010	基礎熱力学	2	2	(講)		○		○			
	1GGB011	近代物理学	2	2	(講)					○		
	1GGB012	基礎量子力学A	2	2	(講)						○	○
	1GGB013	基礎量子力学B	2	2	(講)						○	○
	1GGB014	基礎統計力学	2	2	(講)					○		
	1GGB015	基礎解析力学	2	2	(講)						○	
	1GGB016	物理学基礎	2	2	(講)		○					
	1GGB017	入門物理学1	2	2	(講)		○					
	1GGB018	入門物理学2	2	2	(講)							○
	1GGB019	基礎物理学演習	2	2	(演)					○	○	
	1GGB020	基礎物理学実験1A	6	3	(実)		○					○
	1GGB021	基礎物理学実験1B	4	2	(実)					○		○
	1GGB022	基礎物理学実験2A	4	2	(実)		○					
	1GGB023	基礎物理学実験2B	4	2	(実)							○
	1GGB024	応用物理学実験	4	2	(実)					○	○	
	1GGB025	入門物理学実験	4	2	(実)							○

- 学部・学科、学域・学類によって配当年次が異なるので、それぞれの『要覧』を確認してください。
- (講)は講義、(演)は演習、(実)は実験・実習の授業形態を表します。

科目区分	科目コード	科目名	週時間数	単位数	授業形態	担当クラス	開講キャンパスおよび開講期					備考	
							杉本		中百舌鳥		森之宮		
							前期	後期	前期	後期	後期		
基礎教育科目	化学	1GGC001	基礎無機・分析化学A	2	2	(講)	〈別途揭示〉	○					
		1GGC002	基礎無機・分析化学B	2	2	(講)		○				○	
		1GGC003	基礎物理化学A	2	2	(講)		○				○	
		1GGC004	基礎物理化学B	2	2	(講)						○	
		1GGC005	基礎有機化学A	2	2	(講)		○					
		1GGC006	基礎有機化学B	2	2	(講)						○	
		1GGC007	基礎無機・物理化学	2	2	(講)		○		○			
		1GGC008	基礎有機化学	2	2	(講)		○			○	○	
		1GGC009	入門化学	2	2	(講)						○	
		1GGC010	基礎化学実験	4	2	(実)		○		○		○	
	生物学	1GGD001	生物学1	2	2	(講)	〈別途揭示〉	○		○			
		1GGD002	生物学2	2	2	(講)						○	
		1GGD003	生物学A	2	2	(講)		○					
		1GGD004	生物学B	2	2	(講)						○	
		1GGD005	生物学C	2	2	(講)		○					
		1GGD006	生物学実験A	4	2	(実)		○		○		○	
		1GGD007	生物学実験B	4	2	(実)						○	
	地学	1GGE001	地球学入門	2	2	(講)	〈別途揭示〉	○		○		○	
		1GGE002	地球学基礎A	2	2	(講)		○					
		1GGE003	地球学基礎B	2	2	(講)						○	
		1GGE004	地球学実験A	4	2	(実)		○					
		1GGE005	地球学実験B	4	2	(実)						○	
		1GGE006	地球学実験C	2	1	(実)		○		○		○	
	情報学	1GGF001	情報システム概論	2	2	(講)	〈別途揭示〉				○	○	
		1GGF002	データベースと情報検索	2	2	(講)			○		○		
		1GGF003	プログラミング入門A	2	2	(演)			○			○	
		1GGF004	プログラミング入門B	2	2	(演)						○	

- 学部・学科、学域・学類によって配当年次が異なるので、それぞれの『要覧』を確認してください。
- (講)は講義、(演)は演習、(実)は実験・実習の授業形態を表します。

## **IV. 履修に関するその他の情報**





## IV. 履修に関するその他の情報

### 1. Q&A

Q1. 『国際基幹教育機構 開設科目要覧』は、毎年発行されるものでしょうか。もしくは在学中使用するものですか？

A1. 本冊子は、入学時から学士課程在学中使用します。紛失した場合の再配付はしませんので、大切に保管してください。

なお、開設科目については今後、開講期の変更等が生じる可能性があるため、本冊子には、2025年2月1日時点で開講が予定されているものを掲載しています。変更がある場合は学生ポータル(UNIPA)等に掲載しますので、注意して確認するようにしてください。

Q2. 主たる学びのキャンパスは中百舌鳥ですが、杉本キャンパスのみで開講されている科目を履修したい場合、どうすればよいでしょうか？

A2. 主たる学びのキャンパス以外で開講される授業の履修はできません。

ただし、例外的に許可される場合がありますので、詳細は、本冊子 P5～P6「5. 履修課程と履修上の注意」の「(10)キャンパスをまたぐ授業の履修」を参照してください。

なお、2025年秋の森之宮キャンパス開設に伴い、2025年度後期からは基幹教育科目が森之宮キャンパスで開講となります。基幹教育科目を再履修する場合、森之宮キャンパスに行かなければ履修できないことがありますので、詳細は学生ポータル(UNIPA)又は授業時間割表を確認してください。

Q3. オンラインの授業であればキャンパスを移動する必要がないと思いますが、他キャンパスで開講される授業を履修できますか。

A3. 履修できません。授業の実施方法にかかわらず、基幹教育科目は主たる学びのキャンパスで開講される授業を履修してください。

なお、2025年秋の森之宮キャンパス開設に伴い、2025年度後期からは基幹教育科目が森之宮キャンパスで開講となります。(A2 参照)

Q4. 外国語科目(英語)、健康・スポーツ科学科目、情報リテラシー科目等、クラス指定のある科目について、自分の所属する学部・学科、学域・学類以外のクラスを履修することはできますか？

A4. 所属の学部・学科、学域・学類に配当されたクラスのみ履修できます。  
他のクラスは履修できません。



Q5. 基幹教育科目を3年次以降に履修しても問題ないですか？

A5. 問題ありません。ただし、2年次以降は専門科目の履修が中心となりますので、時間割表を確認しながら、計画的に履修してください。

なお、2年次以降に森之宮キャンパス以外が主たる学びのキャンパスとなる学部・学域に所属する場合は、特に、1年次前期から計画的に基幹教育科目を履修してください。

Q6. 初修外国語について、週何回コースを選択するか悩んでいます。コース選択にあたってのポイントを教えてください。

A6. まずは P39[学部・学域ごとの配当コース]の表で自身の所属が、どのコースを履修できるか確認してください。コースを選択できる所属の場合は、『初修外国語履修ガイド』やオリエンテーション動画を参照してください。また、本冊子P38～P39も参考にしてください。

Q7. 初修外国語科目の入門初級履修免除制度について、免除された科目の代わりに中級科目の単位を修得して卒業要件を満たせば良いということですか？その場合、科目に指定はありますか？

A7. 入門初級履修免除制度とは、1年次の各コースに配当されている「入門」「初級」「基礎」「応用」科目の履修を免除し、よりレベルの高い内容の授業から履修できるという制度です。単位認定制度ではありませんので、卒業に必要な初修外国語の単位については、当該言語の「特修」科目等を履修することで修得してください。

Q8. 海外語学研修に参加するにはどうすればよいでしょうか。

A8. 海外語学研修は夏季休業や春季休業に開催する集中講義になります。学生ポータル (UNIPA) や学生Navi(情報共有サイト)または授業等にて履修者の募集やガイダンスを通知しますので、よく確認するようにしてください。

## 2. キャンパスマップ・フロアマップ

国際基幹教育機構開設科目の授業は、主に2025年度前期は中百舌鳥キャンパス、杉本キャンパス、2025年度後期からは森之宮キャンパスで開講されます。キャンパスマップ・フロアマップは右記QRコードから確認できます。



学生ポータル (UNIPA) > リンク (画面左下) > キャンパスマップからもアクセスできます。

## 3. 相談窓口

- 教育推進課 基幹教育担当 (杉本キャンパス)

全学共通教育棟 2階 TEL 06-6605-2935

メールアドレス [kyik-las-sugi@ml.omu.ac.jp](mailto:kyik-las-sugi@ml.omu.ac.jp)

- 教育推進課 基幹教育担当 (中百舌鳥キャンパス)

B3棟 1階 TEL 072-254-8413

メールアドレス [kyik-las-naka@ml.omu.ac.jp](mailto:kyik-las-naka@ml.omu.ac.jp)

※2025年秋の森之宮キャンパス開設に伴い、2025年度後期からの相談窓口については、UNIPA 掲示にて案内します。



大阪公立大学国際基幹教育機構

教育推進課 基幹教育担当